

(5) 社会福祉法人敬英会 介護老人保健施設さくらがわ (大阪府)

外国人介護職員 (Eさん、Fさん)

国籍 : ベトナム

在留資格 : 留学→在留資格「介護」

1 基本情報

1.1 来日から現在までの状況

- ・ 2016年に来日。2016年の時点で敬英会に非常勤として入職。
- ・ 2019年から正社員になり、介護福祉士として働いている。
- ・ 日本語能力の変遷は、E氏が来日N3でN2取得済み、N1の取得を目指している。F氏は、来日時はN4, 5くらいで、N2取得済み、N1の取得を目指している。
- ・ 介護福祉士国家試験は、E氏は2回受験(不合格)しており再受験予定。F氏も、3、4回(不合格)受験しており、再度受験予定である。

1.2 生活の状況

- ・ E氏は、現在1人暮らしでベトナム人のパートナー(技能実習生(印刷関係)として日本で就労中)がいる。技能実習終了後、自分の家族帯同のビザにするかはまだ考えていない。
※ヒアリング後の1月に結婚し夫婦で寮で生活。
- ・ F氏も現在1人暮らし。特に家族帯同したいという希望はまだない。
- ・ 大阪府から奨学金を受給した。

2 活躍の実際

2.1 介護職を選んだ理由

- ・ 母国の医療短期大学の先生が日本の看護師(ベトナム人)をしていて、色々教えてくれた。E氏は、日本に来るときは看護師になりたいと思っていた。

2.2 現在の就労先を選んだ理由

- ・ 母国にいるときから、敬英会に入る予定で来日した。アルバイトのときから敬英会。留学時代は、和歌山の同じ法人の別施設でアルバイトをしていた。

2.3 現在の立場・働き方

- ・ E氏: 今年の4月からリーダー(リーダーは、各階に1-2名、事業所全体で7名配置)、リーダーになってほしいと言われた時は、他に外国人でリーダーしている人がいないため「無理」と思った。今は、なんとなくできている。周りの人にも支えてもらっている。リーダーは責任を持っているから、色々考えなければいけないし、しっかりしないといけない。
- ・ F氏: 今年の4月からリーダーになったが、最初は「無理」と思った。日本人のほうが良いと思ったが、主任から「職員にベトナム人が増えているので、大丈夫。応援する。」と言われた。同じベトナムの後輩たちの通訳もしている。

2.4 業務内容

- ・ ショートステイでは入浴の順番を決めたり、勤務を組んだりしている。
- ・ リーダーになってから業務は大きく変わっていないが、会議が増えた。同じベトナムの後輩たちの指導や、相談に乗ったり、こうしたほうが良いというアドバイスをしている。日本人にも教えることもある。

2.5 仕事のやりがい

- ・ E氏：利用者に関わるのは面白い。利用者さんとの関わりで頑張ろうと思う。周りのスタッフと関わるのも面白く楽しいので、やりがいにつながっている。介護の仕事は楽しく自分に合っていると思う。他の仕事をしたいと思ったことはない。
- ・ F氏：最初は慣れなかったが、今は慣れた。利用者を手伝って、「ありがとう」と言われると嬉しい。

3 支援内容

3.1 法人・施設からの支援

- ・ 本を買って自分で勉強している。会社で勉強会はあるが、試験対策ではない。介護福祉士も日本語に関しても自分で勉強する。

3.2 あると良い支援

- ・ 食費の支援。
- ・ 介護福祉士受験費用を支援してくれると嬉しい。費用が高いため、支援があれば毎年受けたいと思う。
- ・ E氏：ベトナム語の翻訳があると良い（専門用語集は持っている）。日本語の専門用語がはっきりわからないことがある。わからない用語等は、職員に聞いている。
- ・ F氏：本当は先生から直接教えてもらいたいが、難しければベトナム語の翻訳があると良い。勤務時間に勉強できたら嬉しい。

4 課題

4.1 現在仕事や生活で困っていること

- ・ 今、困っていることはない。この施設は何でも教えてくれている。

4.2 困ったときの相談相手

- ・ 相談しやすいのは主任や直接の上司。本部職員にも相談する。お父さんみたいで話しやすい。ベトナム語がわかる人はいないが、職員が支えてくれている。

4.3 同国籍のコミュニティ等

- ・ Facebook で日本に住んでいるベトナム人のグループがあり、色々な情報がやりとりされている。実際やりとりはせず、見るだけ。

5 その他

5.1 今後の意向

- ・ E氏：介護福祉士に合格したい。N1とケアマネジャーをとりたい。色々体験したい。し

ばらくは日本にいたいと思っている。介護は続けていきたいが、まだその後のステップアップまでは考えていない。

- ・ F氏：介護福祉士、N1取得が現在の目標。5年経ったら母国に戻るかもしれない。母国に戻って、介護の先生になるか、自分で仕事をするか。
- ・ E氏・F氏：まだベトナムには介護がない。ほとんど看護。そのため、母国の専門学校等で介護を教えたい。高齢者も増えてきている。

施設・事業所の職員

1 基本情報

1.1 外国人介護職員の就労状況

- ・ 現在の在籍人数は、13名
- ・ 在留資格では、在留資格「介護」10名、留学（養成施設）3名
- ・ 国籍別では、ベトナム11名、ロシア1名（留学生）。法人としては6か国から受け入れている。
- ・ 介護福祉士国家試験は、10名中1名が合格。

1.2 受け入れのきっかけ

- ・ 2014年頃から、日本語で留学に来ている留学生（短期留学1年）の受け入れを行っていた。
- ・ 平成28年大阪介護留学支援プログラム開始。日本人職員が集まらなくなり人材不足となっていた。まずはアジア地域から受け入れをしたいと考えた。

1.3 法人の受け入れ方針

- ・ 介護福祉士の実務経験5年間の特例措置が続くのであれば、引き続き「留学」から「介護」を受け入れたい。メリットは、正社員になる前に介護の適正を確認できること、日本語も上達してから入職してもらえること。在留資格「介護」であれば、すぐに人員配置上にカウントできることもメリット。

2 活躍の実際

2.1 在留資格「介護」の方の施設内における立場

- ・ 日本人と外国人の違いはない。リーダーになるために特に資格要件はないが、介護福祉士であると望ましい。10名の在留資格「介護」の介護職員のうち、役職がついているのは2名（Eさん、Fさん）のみ。2名がリーダーになったときも、周りはお祝いムードで、特に他の職員から「何でリーダーなの？」というような疑問や声はわかかなかった。

2.2 日本人職員との業務や待遇の違い

- ・ 業務や待遇の違いはない。

2.3 活躍の状況

- ・ 利用者に寄り添っており、好かれている。真面目に仕事もしており、後輩の面倒もよく見ている。他職員とのコミュニケーションもとれ、ルールを守ることができる。

- ・ 和歌山県のグループホームの利用者は、認知症でもともと話さない人だったが、外国人介護職員が関わることで「あんたら、日本語下手やな」と、日本語や和歌山弁を教えてくれるようになった。その利用者がそんなに話すようになったのは、職員も初めて見た姿であった。Eさんが特に和歌山弁を教えてもらっており、Eさんは普段は和歌山弁で話している。
- ・ EさんやFさんが先輩となり後輩に教えてくれるので、指導がスムーズになった。今まで伝わらなかったことも伝わるようになった。
- ・ 最近、Eさんは日本人にベトナム語を教えている。それがきっかけで現在、その日本人はアルバイトとして敬英会で働いている。外国人介護職員が日本人職員を連れてきた。
- ・ 現在、記録は手書きからタブレットに変更しており、問題ない。もともとは、作業効率をあげるための導入であったが、外国人介護職員の記録面でも効果的であると感じる。
- ・ リーダーになり、ご家族宛にお手紙を書く、リーダー会議、シフト調整、業務調整をするようになった。

3 支援内容

3.1 外国人介護職員全般に行っている支援

- ・ 業務面での支援では、翻訳機を使って会話することもある。施設としてベトナム語のマニュアルは用意していない。翻訳ソフトを使う、先輩が指導する等してフォローしている。新しい介護職員に対しては、先輩職員が通訳に入ることもある。
- ・ 利用者家族等に対してのお便りもお願いしているが、添削している。
- ・ 1か月程度休暇をとり、帰国する方が多い（有給休暇が足りなければ欠勤で帰国する方もおられる）。全員が同じ時期にとってしまうと困るが、外国人介護職員同士で調整してくれている。
- ・ 法人として、寮を用意している。また、通学中の交通費や日本語学校の学費の援助、専門学校の学費の保証人（修学資金貸付金制度を利用）になっている。
- ・ 「大阪介護留学支援プログラム」で入職しているため、大阪介護老人保健施設協会にて契約書はベトナム語で用意されている。その他の言語の学生には先輩による通訳や英語で説明を行っている。

3.2 介護福祉士取得のために行っている支援

- ・ 特に行っていない。質問があれば答える。積極的に助けると言うよりは、困っているときに助ける。
- ・ EさんとFさんは母国でも看護学校卒業で、専門学校も卒業しているので、知識面に関して特に支援は必要としていないと思う。

4 在留資格「介護」受け入れによる変化

4.1 法人や施設での変化

- ・ リーダーの2名とも性格が明るいので、日本人職員も教えてあげようという気持ちになっている。2名は利用者に寄り添ってくれて有難い。利用者に丁寧に接している2名を

見て、他の職員も見習おうとしている。

4.2 日本人職員の変化

- ・ 何で何でとよく質問をする外国人介護職員がいるので、日本人職員がそこを説明することで、振り返りや反省につながっている。
- ・ 外国人介護職員と関わることで、ベトナム語を学び始めた職員がいる。

4.3 利用者の変化

- ・ もともと短期で留学生（日本語留学）を受け入れていたことから、特に変化はない。
- ・ 利用者の中にはまれに外国人介護職員を好まない人がいるが、外国人だからというよりは相性の問題と感じる（日本人職員でも相性が合わない利用者はいる）。

5 課題

5.1 在留資格「介護」を雇用する際の課題

- ・ 現在、介護福祉士国家試験の合格率が低いので、今後特例措置がなくなることを見据えて、サポート体制の見直しも必要と考えている。例えば、勤務時間中に勉強できるようにする、学校での補講時間分の不足のアルバイト代を支援する、受け入れ時の日本語能力要件を高くすること等が考えられる。

(6) 社会福祉法人正仁会 特別養護老人ホームなごみの郷（広島県）

外国人介護職員（Gさん）

国籍 : インドネシア

在留資格：EPA 介護福祉士候補者→帰国→技能実習生（介護）第2号→在留資格「介護」（介護福祉士合格）

1 基本情報

1.1 来日から現在までの状況

- ・ 2012年にインドネシアの大学卒業後すぐに来日、EPAとして4年間A県で介護の仕事をしていた。介護福祉士に不合格（6点不足）だったことと結婚の希望もあり、インドネシアに帰国し、母国で結婚・出産。インドネシアにいた3年間は日本語も使わず、仕事もしていなかった。
- ・ 2019年11月に技能実習生として、再度来日（広島）。日本語能力は来日時N3程度。
- ・ 介護福祉士国家試験を3回受験し、3回目（2022年1月）に合格。

1.2 生活の状況

- ・ 2023年1月に夫と子どもが来日予定。現在はインドネシア人の同僚と住んでいる。同僚は10歳下で妹のような存在に感じており、面倒を見ている。
- ・ 奨学金は受給していない。

2 活躍の実際

2.1 介護職を選んだ理由

- ・ A県で4年間介護の仕事をした後、インドネシアに帰国した際に、介護の仕事が自分に合っていると思い、また来日したいと思った。インドネシアに介護の仕事はないので、日本に来た。

2.2 現在の就労先を選んだ理由

- ・ 日本で介護福祉士に絶対に合格したいと思っていた。なごみの郷は合格を応援、サポートしてくれるから選んだ。

2.3 現在の立場・働き方

- ・ 利用者1名を担当している。（日本人は利用者を3,4人担当している）ゆっくり学べることはありがたい。

2.4 業務内容

- ・ 担当です仕事は、家族への連絡、本人のケア、準備など。ミーティングは1か月に一度参加している。行事も他の職員と一緒に考えている。
- ・ 記録はタブレットで、自分ですべてやっている。漢字も変換で出るので、タブレットの方が良い。
- ・ 申し送りが間違っていたら、後でほかの職員が教えてくれる。朝礼・夕礼はZoomで開催されており、そこで報告をしている。報告が一番緊張する。

2.5 仕事のやりがい

- ・ 仕事は大変だけど、利用者からの優しい言葉で、疲れは抜ける。

3 支援内容

3.1 法人・施設からの介護福祉士に関する支援

- ・ 生活相談員と1週間に1回ほど仕事の後に一緒に勉強した。
- ・ 仕事から帰宅後、YouTubeなどをみて勉強していた。子どもと長い時間離れたくなかったため、合格したい気持ちが強く、不合格だった場合は帰国することを宣言していた。
- ・ 実務者研修の受講支援や模擬試験(法人が開催)もあった。模擬試験はありがたかった。

3.2 宗教に関する配慮

- ・ 過去の就労先では、宗教に関する理解がされず、ジルバブの着用やお祈りをすることができなかったこともあり、辛かった。今の事業所では、配慮がされており、お祈りの時間を作ってくれている。

4 介護福祉士合格による変化

4.1 介護福祉士合格の前後に感じる違いについて

- ・ 勉強する前と勉強した後では、違いを感じた。他の職員を指導する際に、以前は根拠がわからなかったが、勉強して知識が増えたので、理由がわかるようになった。介護福祉士合格後には、自信をもって「これは実は駄目よ」と理由と合わせて指導できるようになった。

4.2 待遇の変化

- ・ 少し手当てがあった。

5 課題

5.1 現在仕事や生活で困っていること

- ・ 夫の仕事と、今後の生活が心配。実習生の時は、アパートが援助されていたが、これからは個人の負担になる。日本で仕事をするためには、まず日本語を勉強することが必要だと思う。N4を取れたら仕事があると思うので、そのために学校に行った方が良いと思っている。アパートなどを施設が援助してくれるため、生活が楽なのは実習生だと感じる。実習生のマイナスな点は家族と住めないこと。今は家族と暮らしたい。

5.2 困ったときの相談相手

- ・ 生活相談員か事務長。生活相談員が主に相談に乗ってくれるし、何かあれば相談する。事務長も優しい。
- ・ 外国人支援センター、サポートセンターは行ったことがない。

5.3 同国籍のコミュニティ等

- ・ Facebookのコミュニティはあり、1年に一度ほどお祈りで会うことはあった。直接会うのは難しい。

6 その他

6.1 今後の意向

- ・ 日本語能力試験 N1、看護師、ケアマネジャーに挑戦したい。大学では看護を学んでいて、看護の勉強を続けたいと思っていた。将来、看護師の資格を取れたら、病院ではなく、施設で働きたいと思っている。病院は薬や治療がメインだが、施設の場合は利用者と楽しく、コミュニケーションや支援ができる。
- ・ 主任になりたいとはまだ思っていない。他の職員に意見を言わなければいけないのが今は怖い。インドネシア人が増えた場合、インドネシア人のリーダーや担当はやってみたいと思うが、日本人の指導は自信がない。

施設・事業所の職員

1 基本情報

1.1 外国人介護職員の就労状況

- ・ 現在の在籍人数は、5名。
- ・ 在留資格・国籍別では、技能実習3名（カンボジア2名、インドネシア1名）、留学1名（ベトナム）、在留資格「介護」1名（インドネシア）。
- ・ 日本語能力はN3レベルで入ってきている。N2にはまだ受かっていない。
- ・ 介護福祉士国家試験は今年度3人受験する予定。

1.2 受け入れのきっかけ

- ・ 2013年9月に中国の方2名（看護師の免許取得を目指す留学生）を受け入れた。当時の受け入れのきっかけは詳細にわからないが、当時は今ほど人材不足でもなかったのも、将来のことをすごく考えていたというわけではなかったと思う。

1.3 法人の受け入れ方針

- ・ 現在は外国人の雇用を進めていかなければいけないと思っている。日本で勉強している人を受け入れるという意味もある。
- ・ 留学生のころからアルバイトで支援しているが、介護の知識や経験が0の状態から受け入れるのは難しいと感じる。介護の勉強は学校でできてほしいという思いは、外国人でも日本人でも同じ。一方、日本語がある程度できれば、外国人は介護の知識がなくても受け入れられると思う。

2 活躍の実際

2.1 在留資格「介護」の方の施設内における立場

- ・ リーダー等に関する要件については、介護福祉士を持つことは必要であるが、何かの試験に通ったら主任になれる等の決まりがあるわけではない。外国人介護職員がなる可能性も0ではない。
- ・ Gさんが介護福祉士を取ったことがとても良い刺激になっている。結婚や子育てをしながら働けるという一つのモデルケースになっていることが、一番大きいと感じる。

2.2 日本人職員との業務や待遇の違い

- ・ 受け持つ利用者の担当の人数については、配慮していた。技能実習のときはサポートのケアワーカーを1人つけて、困ったときはその職員に聞けるように体制をつくっていた。
- ・ 日本語の問題もあり、Gさんにはまずは1人担当になってもらっている。アセスメントの文章化が難しいように感じる。いずれは、担当を増やしてもいいとフロアリーダーと話している。

2.3 活躍の状況

- ・ 全部の業務をやってもらっている。委員会の参加はしていないが、個人で利用者の担当はついてもらっている。利用者をよく理解しようとしている姿勢は誰よりも感じる。
- ・ アセスメントを自分でした上でカンファレンスにも参加し、他職種の中で意見を言って、モニタリングも行っている。あまり日本人職員と区別はせず働いている。家族との情報交換もしてもらっているし、夜勤も1人でやっている。日本語での記録もしている。

2.4 期待すること

- ・ 技能実習生たちの相談に乗ってくれるなど、外国人介護職員を指導する立場になってくれたら嬉しいという思いは個人的にある。

3 支援内容

3.1 外国人介護職員全般に行っている支援

- ・ ラマダンの時は入浴介助を免除している。
- ・ 基本的には、各フロアのリーダーが話を聞いている。外国人だから何かしているということではなく、一職員としてフォローをしている。LINEの方が言いやすかったりもするようなので、個人的なLINEで繋がっている。また、月1回の面談はどの職員に対してもやっている。わずかな時間でも、「最近どう？」と聞く場合は、必ず持とうと取り組みをしている。
- ・ 外国人介護職員は、長期で帰国することもあるが、日本人職員から不満が出たことはない。むしろ、「よく来てくれたね」という気持ちの方が大きい。
- ・ 在留資格「介護」でも、生活面の支援が必要。在留資格「介護」になると家賃補助等がなくなることから、技能実習生の方が生活に余裕があるのではと感じる。できるサポートとして、Gさんは今後家族帯同もすることから、職員からふとんや子供服等を集めて、活用してもらった。
- ・ 日常の中で教えることはたくさんあるが、日本語を教えることは専門的でとても難しい。何かしたいとは考えている。

3.2 介護福祉士取得のために行っている支援

- ・ 資格取得のための学習支援は、日本人も外国人も関係なく行っている。それぞれに担当をつけて、学習の支援や模試を3回実施している。
- ・ 一般的な書籍にはルビがないので、文字でわからないところは、口頭で説明をしている。

4 在留資格「介護」受け入れによる変化

4.1 日本人職員の変化

- ・ 外国人介護職員の受け入れは、周りの職員に対してよい刺激であると感じる。また、難しいケースに対しても、ケアすることができていて、日本人職員からも認められている。「普段は対応が難しい利用者も 100%お風呂に入れてすごい」などの話を職員から聞く。
- ・ 最初に価値観の違いなどはあったと思うが、今は国籍というより人としての違いと感ずることの方が多い。

5 課題

5.1 在留資格「介護」を雇用する際の課題

- ・ 特にない。外国人介護職員がいることに日本人職員が慣れすぎると、徐々に気に掛けることがなくなってしまう可能性があるため、気を付けないといけないと感じる。

5.2 今後、在留資格「介護」の方が活躍するために必要なこと

- ・ モチベーションの形成をどうするかが課題。G さんの場合は「家族を連れてくる」という目的で分かりやすかった。他の外国人介護職員に対して、モチベーションとして提示できることは、施設での手当や、日本で生活ができる、ということくらいだと思う。

(7) 社会福祉法人厚仁会 特別養護老人ホーム珠光園（香川県）

外国人介護職員（Hさん）

国籍 : フィリピン

在留資格 : 技能実習→帰国→留学→在留資格「介護」

1 基本情報

1.1 来日から現在までの状況

- ・ 2014年に一度目の来日、技能実習生として山梨県の半導体工場で3年間働く。その後フィリピンに帰国し、日系企業で翻訳の仕事を1年半行った。2019年に再度来日し、介護の養成施設に入学。
- ・ 日本語能力は、技能実習生として来日する前に1年半ほど日本語学校に通い、N4に合格。技能実習生として来日中にN3,N2に合格。(2016年にN2に合格)
- ・ 介護福祉士国家試験は、1回目合格。

1.2 生活の状況

- ・ 現在は1人暮らし。2022年12月に結婚相手を日本に家族滞在ビザで連れてくる予定。結婚相手は元技能実習生でフィリピンの日系企業で翻訳者として働いており、日本に来てから仕事を探す予定。
- ・ 香川県の奨学金を受けている。

2 活躍の実際

2.1 介護職を選んだ理由

- ・ 看護師になりたかったが、フィリピンに帰国した際に介護の仕事を紹介された。日本の介護の方が就職しやすそうであり、家族の経済状況を考えると看護よりも介護が望まれた。
- ・ 介護の仕事はゼロからのスタートであったため難しかったが、だいぶ慣れた。来日前にN2を持っており、それにより日本で介護の仕事ができることから、養成施設に入学にすることにした。

2.2 現在の就労先を選んだ理由

- ・ 留学生のころからアルバイトで就労していた。

2.3 現在の立場・働き方

- ・ 一般職員。

2.4 業務内容

- ・ 日本人の介護職と変わらない。夜勤は4～5回/月、14時間夜勤。夜勤を始めたときは大変であったが、今は何とかこなしている。
- ・ アルバイトから正職員になって、夜勤をすることになったことと、利用者を担当することとなったことが大きな違いである。

2.5 仕事のやりがい

- ・ 暗い雰囲気の利用者が、話をすることで明るい雰囲気になってくれるのがやりがいとなる。

3 支援内容

3.1 法人・施設からの介護福祉士に関する支援

- ・ 外国人介護職員に対して特別な支援はない。
- ・ 留学生の時に、施設から受けていた学習面の支援は、日本語学習支援、介護に関する学習支援、翻訳付きの本やテキストの配布、学校授業料の支援、資格受験費用の支援などである。
- ・ 試験前一月はアルバイトを調整してもらい、勉強していた。

3.2 欲しかった支援

- ・ あまりないが、介護の言葉の学習支援が整備されていればよいと思う。介護記録を学びたい。
- ・ 現在は自己研鑽として、現場でおきる事故などの勉強をしている。

4 課題

4.1 現在仕事や生活で困っていること

- ・ 生活の場ではあまり困っていないが、一番は言葉である。職場で使う言葉がわからないことがある。また、方言もあり今でも少し戸惑うことがある。

4.2 困ったときの相談相手

- ・ 学生時は学校の先生。現在は相談先が決まっていないが、学生の頃から主任と良い人間関係ができていたため、主任が一番相談しやすい。

4.3 同国籍のコミュニティ等

- ・ 特段ない。

5 その他

5.1 今後の意向

- ・ 同じ施設で介護職を続けたいと思っている。技能実習生より正職員として働けるこの仕事の方がよい。
- ・ 将来的に日本での生活を続けていきたいと思う。日本の子育ての制度等が整っていることや、正職員として働けば、日本人と変わらない給与を得られることも理由。

施設・事業所の職員

1 基本情報

1.1 外国人介護職員の就労状況

- ・ 現在の在籍人数は、4名。

- ・ 在留資格別では、在留資格「介護」3名（全員養成施設ルート、法人全体では7人）、留学1名。
- ・ 国籍別では、ミャンマー3名、フィリピン1名。
- ・ 日本語能力は、N2程度（1名）、N3程度（3名）。
- ・ 介護福祉士国家試験は、受験者（3名）、合格者（1名）。

1.2 受け入れのきっかけ

- ・ 1997年に養成施設を開設したが、学生数が減少していた。在留資格「介護」の制度が出来たため、養成施設の生き残り策の一つとして外国人留学生の受け入れを開始した。周囲の施設・事業所では、技能実習生受け入れのための契約金を払ったのに外国人介護職員が紹介されないなどのトラブルが多発していた。様々な批判を受けたが、地域で外国人介護職員を探している施設・事業所4施設を仲間にして、外国人留学生受け入れの準備を進めていった。
- ・ 第一期生は3人が入学し、卒業後3施設に就労した。全員定着している。最初に留学生から在留資格「介護」を取得したのは2020年である。

1.3 法人の受け入れ方針

- ・ 全員定着している。外国人介護職員が日本で生活が続いている理由として、日本で介護をしたいという理由もあれば、介護は手段であり、仕事をしながら日本の文化を堪能したいという理由もあるように感じる。

2 活躍の実際

2.1 在留資格「介護」の方の施設内における立場

- ・ リーダー等の役職についている外国人はいないが、日本人、外国人問わず、介護ということにおいては同じ土俵に立っているのも、違いはなくもちろん役職者にもなれる。他施設で就職した卒業生にはリーダーを任されている外国人もいる。

2.2 日本人職員との業務や待遇の違い

- ・ 業務や処遇の違いはない。委員会は新入職員のと時から日本人・外国人を問わず入る。しかし委員会の種類によっては理解を深めた後に入ってもらおう。
- ・ リスクを管理する事故防止委員会のような委員会は、難しい言葉が出てくるほか、判断をかけていく必要があるため、少し時間をかけて委員会に入ってもらいたい。日本語の慣れの状況や向き不向きによって入る委員会を決めている。

2.3 キャリアパス

- ・ キャリアパスは、上を目指すというより、それぞれの専門性を伸ばしていくようなものである。介護の中での自分の専門性をいかに伸ばしていくか、どれだけ自分の目標を設定するか、どれだけ達成するかを評価している。（例：認知症やケアプランの作成など）

2.4 活躍の状況

- ・ 国は違っても後輩の外国人介護職員を気にかけているようである。
- ・ 外国人介護職員は、介護の専門学校で学んでいるので、アプローチの方法がうまいと感じることはある。

- ・ これは、他施設で就職した卒業生のことであるが、就職後、県の介護技術コンテストで県知事賞を受賞した外国人介護職員もいる。

2.5 期待すること

- ・ 日本で介護の仕事をして、少しでもいい思い出を作ってほしいと思っている。日本で「みんなと同じ扱いをしてもらっている」と思ってもらうことも大切ではないかと思う。

3 支援内容

3.1 外国人介護職員全般に行っている支援

- ・ 法人として、養成施設に在学中は支援（アルバイトの時間の都合など）をしているが、就職してからは一切支援していない。
- ・ 日本人職員と同様に、新人研修と研修委員会による研修、また、専門学校の先生を招いて研修を行っている。
- ・ 日本人と同じ質の記録が取れないと外国人介護職員が夜勤に入ることができず、日本で生活するだけの給料が入らない。そのため、外国人介護職員も夜勤ができるような体制を取れるように、医療介護関係の機器のメーカーと一緒に Care workers という記録ソフトを開発した。日本人職員も含め同じソフトを使い、同じ質の記録が取れるようにして、無駄が無くなり業務省力化（記録時間の短縮）が進むことを目的としている。「かんたん入力」と「14ヶ国語対応」という点を最重要視した。
- ・ 香川県は公共交通機関が不便なため、主な移動手段は自転車となる。留学生のときのみ電動自転車を学校から貸し出している。
- ・ 留学生が勉強とアルバイトを両立できるように、身体を休める日として金曜日の授業を休みにして、土日はしっかりアルバイト（同法人内の施設）ができるようにしている。そうして、しっかりと介護の勉強を継続し、介護福祉士を取得して就労し続けることが出来るようにしている。

4 在留資格「介護」受け入れによる変化

4.1 日本人職員の变化

- ・ 最初はネガティブな反応もあったが、全体的に理解を示す職員の割合が増えるにつれ、自然と反発意見は少なくなっていく。直接説明するより、雰囲気による効果の方が大きかったと思う。外国人介護職員も、職場で受け入れられるよう自分なりに努力をして、自国の文化や食の話題をきっかけに会話やコミュニケーションが活発になっていった。

5 課題

5.1 在留資格「介護」を雇用する際の課題

- ・ 養成施設への受け入れにあたって、課題となったのは入管であった。入管の課題は、N3程度の日本語能力があり、養成施設が入学を許可しても入管が入国を許可しないということがあったことである。

5.2 今後在留資格「介護」の方が活躍するために必要なこと

- ・ 介護の現場では「在留資格」は関係ない。皆が同じ資格を持って、同じ仕事をできるようになることが重要である。

(8) 社会福祉法人リデルライトホーム 地域密着型ユニット型介護老人福祉施設ノットホーム (熊本県)

外国人介護職員 (Iさん)

国籍 : ベトナム

在留資格 : 留学→在留資格「介護」

1 基本情報

1.1 来日から現在までの状況

- ・ 2015年3月末に来日、日本語学校に入学。2年間就学した後、2017年4月に九州リハビリテーション専門学校に入学。卒業後、2021年4月にノットホームに就職
- ・ 来日時の日本語能力はN4レベル。2018年にN2に合格した。
- ・ 介護福祉士国家試験は、専門学校卒業時に受験し、1回で合格した。

1.2 生活の状況

- ・ 日本語学校時代は、学校の友人と同居、介護の専門学校に入ってから1人暮らし。
- ・ 法人と社会福祉法人熊本県社会福祉協議会の奨学金をもらっている。

2 活躍の実際

2.1 介護職を選んだ理由

- ・ 最初は、ベトナムと日本の介護の違いはわからなかった。看護師と同じような仕事かと思っていた。せっかく勉強したから、資格をとって、頑張ってみようと思った。

2.2 現在の就労先を選んだ理由

- ・ 家から近い。学生時代は、別の事業所でアルバイトをしていたが、家から遠かった。
- ・ 給料よりも人間関係が良いところを選んだほうが良いと聞いて、リデルライトホームは人間関係が良さそうで長く働けると思った。

2.3 現在の立場・働き方

- ・ 一般職員。

2.4 業務内容

- ・ 日本人との業務の違いはない。
- ・ 介護記録などは、1人で書いている。
- ・ 委員会活動は、正社員の中でも長く勤めている人のみなので、自分は所属していない。

2.5 仕事のやりがい

- ・ 利用者とうとうと楽しい。
- ・ 外国人と日本人が平等に一緒に働くことができる職場は多くない気がするので良い。ノットホームは外国人と日本人が平等に働くことができる職場である。
- ・ 介護の勉強をして、家族にシェアしたいと思っている。日本で勉強してよかったのは、認知症や病気になった時の食事形態等、年をとった時の対応がわかったこと。24時間家族が介護することは大変だと思うが、いつか自分が家族を介護するときもストレスを溜

めないで対応することができると思う。

3 支援内容

3.1 法人・施設からの支援

- ・ 特になし

3.2 今後あると良い支援

- ・ 日本語を毎週教えてくれると嬉しい。YouTube やアプリは限界がある。1～2時間でも良いので、教室や対面が良い。日本語能力試験は日常会話だけではないので、文法や新しいことを学ぶ必要がある。普通の業務では新しいことを学ぶというのは少ないので、試験用の日本語を学びたい気持ちがある。
- ・ 介護の専門用語も学びたい。記録を書く時には必要。今は、インシデント等があると、時間内に書くのは大変である。普通の記録は問題ないが、事故報告書、特記などは日本人よりも時間がかかる。

3.3 勉強方法

- ・ 学生時代は小テストもあり、間違えたところは、何回もノートに書いて覚えた。介護福祉士テストのアプリも、夜寝る前と昼休みに見るようにした。暗記できるくらい何度も見た。
- ・ 試験前はアルバイトを減らした。
- ・ 専門学校時代は、クラスメイトとグループで母国語禁止にして勉強することもあった。当時は、ベトナム人が多かった（5人くらい）。他にネパール、フィリピン等もいた。クラスメイトとは、今も食事に行く仲である。

4 課題

4.1 現在仕事や生活で困っていること

- ・ 在留資格「介護」に変えたら、更新期限が長くなると思っていたが、自分は毎年更新している。熊本の在留資格「介護」の人はみんな同じだと思う。そのため、在留資格「介護」に切り替えることの魅力がなくなってきており、周りの友人ともそういう話をしている。在留期間が1年の場合、クレジットカードの手続き、銀行のアプリ等制限がある。更新するたびに、運転免許・マイナンバーカードの更新も必要である。
- ・ 在留資格に関する申請書類の手続きは、何かあったときに自分で責任を持ちたいので、会社ではなく全て自分で行っている。手続きは、本当は外国人1人でもできるはずなのに、1人では通らない。しかし、弁護士等にお問い合わせするとお金もかかる。

4.2 困ったときの相談相手

- ・ 利用者に関係することは、職場の人に相談する。困ったときはすぐに市役所に行ったり、友人たちに相談する。

5 その他

5.1 今後の意向

- ・ 介護の仕事は生活が安定しているので、しばらく続けたい。今は、日本語能力試験を受験することと、貯金をして、通訳の勉強をしたい。そのための学校に通おうか悩んでいる。
- ・ リーダーになることは想像してみたが、まだ難しいと思う。リーダーはこの施設では結構偉い人。「この利用者は、いつもこの時間に寝るのに、違う時間に寝たのはなぜか」と考えたり、職員が元気ないときは気にしたり、今日はこのユニットは人が少ないから、どうすれば良いかを考えたりしないといけない。自分は外国人ということもあり、まだ言葉に誤解が生じてしまうのではないかと思う。

施設・事業所の職員

1 基本情報

1.1 外国人介護職員の就労状況

- ・ 法人としては、3名（他、養護老人ホーム1名、特別養護老人ホーム1名）。正規職員はIさんのみ。

1.2 受け入れのきっかけ

- ・ 2019年の途中から週2回のアルバイトで受け入れ、2021年4月に就職した。成績も良いとのことで、九州リハビリテーション学院からの紹介だった。もともとは別の事業所でアルバイトしていたが、距離が遠いということで、本人の希望で移ってきた。
- ・ その後、アルバイトで1名外国人を受け入れたが続かなかった。施設としては、その2名しか外国人介護職員を知らないため、何か外国人介護職員のために準備をしたり、体制を整えたりしているわけではない。

1.3 法人の受け入れ方針

- ・ 今は特に検討していない。

2 活躍の実際

2.1 在留資格「介護」の方の施設内における立場

- ・ 一般職員。

2.2 日本人職員との業務や待遇の違い

- ・ 業務や処遇の違いはない。
- ・ 委員会活動は、法人で10設置しており、各施設から1名ずつ選任している。ノットホームの介護職が全員入っているわけではなく、今は、管理職や、経験のある介護職員が委員会のメンバーになっている。今後、Iさんにも委員会活動に参加してもらいたいとは思っている。

2.3 キャリアパス

- ・ キャリアパスの仕組みは、特になし。適材適所で考えている。
- ・ 外国人と日本人で違いはない。本人のキャリアを考えて、法人内の異動等も有り得る。

2.4 活躍の状況

- ・ 入居者に微熱があった時、Iさんは顔色だけで真っ先に気づいていた。また、認知症の人に対しての介助では、声掛けをしっかりとっている。接し方についてあえて教えたわけではないけど、そういうことがしっかりとできる。
- ・ ユニットリーダーからの信頼は厚い。一度指示をすれば任せられる。細かいことを言わなくても伝わる。

2.5 期待すること

- ・ 行く行くはリーダーになってほしい。今は、外国人介護職員が少ないが、今後外国人介護職員のとりまとめも行ってほしい。

3 支援内容

3.1 外国人介護職員に行っている支援

- ・ 普段の会話は全く問題ないが、方言はわからないことも多いので教えることもあった。しっかりした勉強会というよりは、利用者が話す方言でわからないことがあれば教えた。
- ・ 今は学習に関するサポートはしていない。もし勉強したいなどの要望があれば、勤務形態等の調整はしたい。
- ・ Iさんはしっかりした方で、自分でできることと施設にお願いすることを整理して考えている。先月10日間帰国したが、その時は半年前から計画して、有給休暇の調整をしていた。

3.2 今後したい支援

- ・ まだまだ手探りだが、一法人ではできることも限界があるので、複数法人で何かできたら良いと思っている（コロナ禍で研修等は、他の法人と合同研修も行うようになったので、外国人への支援に対してもあっても良いと思う）。

4 在留資格「介護」受け入れによる変化

4.1 日本人職員の変化

- ・ 職員の連帯感が高まった。Iさんの雰囲気もあり、職員の中では中心的な感じである。

5 課題

5.1 以前退職した方

- ・ 以前アルバイトで続かなかった人は、友人たちとの遊びが優先になってしまった。仕事で遅刻等が増えてしまい、退職となった

(9) 社会福祉法人立志福祉会 特別養護老人ホーム輝祥苑 (熊本県)

外国人介護職員 (Jさん)

国籍 : ネパール

在留資格 : 留学→在留資格「介護」

1 基本情報

1.1 来日から現在までの状況

- ・ 2017年に来日、日本語学校に入学した。2年間就学した後、2019年4月に九州中央リハビリテーション学院に入学し、卒業後の2021年4月に特別養護老人ホーム輝祥苑に就職。
- ・ 日本語能力は、介護福祉士国家試験時はN2だった。N1も受験したが、2点足りず不合格だったが、再受験する予定。
- ・ 介護福祉士国家試験は、専門学校卒業時に受験し、1回目で合格した。

1.2 生活の状況

- ・ 一人暮らし。
- ・ 施設から奨学金を受給した。

2 活躍の実際

2.1 介護職を選んだ理由

- ・ 最初は「介護」という言葉も知らなかった。日本語学校の先生から、介護の学校に行くことを勧められた。日本語スピーチで家族について話したことがあったので、それを聞いて勧めてくれたのかもしれない。

2.2 現在の就労先を選んだ理由

- ・ 養成施設時代にアルバイトしており、そのまま就職した。実習先で他の施設にも行ったが、輝祥苑の方が利用者にも慣れているし、環境も良いと思った。人間関係、利用者への接し方が決め手となった。

2.3 現在の立場・働き方

- ・ 一般職員。

2.4 業務内容

- ・ 日本人と変わらず、委員会活動も行っている (褥瘡委員会に入っている)。
- ・ 記録はパソコンを使用しているが、最初は、事故報告書等を書くのが難しかった。まずは自分で書いてから、先輩に聞くようにしていた。現在は、記録は一人で書いており、不安なときのみ確認してもらっている。2年目からはほとんど見てもらわなくても大丈夫になった。

2.5 仕事のやりがい

- ・ 介護過程に介護の専門性を感じる。認知症のケアは難しい。今も調べることがある。
- ・ 利用者に感謝されることが嬉しい。「今日も会えてよかった」と言われるだけで嬉しく毎

日楽しい。コロナ禍が過ぎたら、レクリエーションを再開して、利用者を楽しませたい。他にも、利用者と外出したい。

3 支援内容

3.1 法人・施設からの支援

- ・ 外国人だからということで特別な支援はない。
- ・ まだ母国には帰っていないが、帰国の際は1か月程度の休暇を取っても良いと言われている。
- ・ アルバイト時代は、試験前に休みを増やしてもらった。

3.2 今後あると良い支援

- ・ 感染症対策、認知症ケア、薬などの専門知識を学びたい。法人内、施設内でもWEB勉強会はあるが、最近はあまり開催されていない。

3.3 勉強方法

- ・ 専門学校で購入した日本語のテキストを使用していた。ネパール語だとわかりづらいので、翻訳されたテキストは必要ない。
- ・ 学校時代は学校がサポートしてくれた。職員にも質問したら教えてくれた。

4 課題

4.1 現在仕事や生活で困っていること

- ・ 最初のうちは先輩がついていて、特に困ったことはない。

4.2 困ったときの相談相手

- ・ 仕事面では、同じネパール出身のK先輩に相談する。同じ国籍の方のほうが気持ちを理解してもらえる感じがする。

4.3 同国籍のコミュニティ等

- ・ 熊本県内のネパール人の集まりには1度だけ参加したことがある。今も参加できるなら参加したいが、仕事も忙しいので参加していない。養成施設時代の友人同士で集まったりもする。

5 その他

5.1 今後の意向

- ・ 当分は日本で生活したい。最終的には、日本にくる実習生等のために通訳になりたい。介護を学ぶ人たちの通訳をしたいけど、介護以外でも良いと思っている。
- ・ 同じネパール出身の先輩がいて安心したように、自分もこれから日本に来る後輩たちを支えたいと思う。K先輩は利用者との接し方、働き方、言葉遣いが丁寧であり、目標とする先輩である。

5.2 介護の専門性について

- ・ 資格を持っていると、介護過程を考えて支援することができる。利用者のニーズに対して介護過程を展開するためには、勉強をして介護福祉士をとってからでないと難しいと

思う。

施設・事業所の職員

1 基本情報

1.1 外国人介護職員の就労状況

- ・ 現在の在籍人数は、6人。
- ・ 在留資格別では、在留資格「介護」（養成施設ルート）3人、「留学」でアルバイトしている方が3人。
- ・ 国籍別では、ネパール国籍2人、モンゴル国籍1人。
- ・ 日本語能力は、就労開始時には全員N1～N2レベルであり、言葉の問題はない。
- ・ 介護福祉士国家試験は3名とも専門学校卒業時に合格している。

1.2 受け入れのきっかけ

- ・ グループ法人の養成施設（九州中央リハビリテーション学院）が2017年度より留学生の受け入れを始め、アルバイトで受け入れてほしいと言われたのがきっかけ。最初の留学生が正職員になったのは2020年からで、それから毎年受け入れている。

1.3 法人の受け入れ方針

- ・ 基本は、留学生時代からアルバイトに関わり、在留資格「介護」として就労する方を受け入れている。法人の立場としては、介護福祉士を目指してほしい。そこに国籍の違いはないと思っている。
- ・ 技能実習については、グループ法人内に監理団体はあるものの、受け入れは今の段階では検討していない。特定技能の受け入れは即戦力として検討している。介護福祉士は必要ではあるものの、そうではない即戦力となる外国人介護職員の活用も必要と考えている。

2 活躍の実際

2.1 在留資格「介護」の方の施設内における立場

- ・ 役職はない。
- ・ いずれはチームリーダーやユニットリーダーの役職につけていくことを考えている。2023年度にユニットリーダーに1名を配置したいと考えている。

2.2 日本人職員との業務や待遇の違い

- ・ 業務や処遇の違いはない。

2.3 キャリアパス

- ・ リーダーになるためには、日本人・外国人関係なく、コミュニケーションがしっかりとれること、利用者への向き合い方等を総合的に判断する。
- ・ どの層でどの研修を受けてほしいといったキャリアパスは、現在構築中。中間層の育成は、法人だけではなく、他の法人とも組んで検討している。今の3人は十分素質があると思う。

2.4 活躍の状況

- ・ ネパール出身のKさんはとても明るくフレンドリーなので、はじめての利用者ともすぐにコミュニケーションがとれる。
- ・ モンゴル出身のLさんは、利用者に熱発者が出た時、よく見に行っており、日本人以上に利用者を気にかける印象がある。ユニット型のため他の利用者も気に欠けないといけないとは伝えつつも、見守り方が細かい印象がある。
- ・ 利用者に多職種で対応するなかで、職種間で意見が食い違うこともあり、苦勞していたように見受けられた。「入居者のために」ということは常に意識していたと思うが、時に職員間の調和を優先せざるを得ない状況に、現場でもっと活躍したいと思っても、そこに葛藤を感じているのではないか。
- ・ 在留資格「介護」は、介護に対する本気度が高いと感じている。日本人職員が外国人介護職員の姿勢（細やか、気がつく、配慮ができる、人の心を読めている）を見習うべきである。

3 支援内容

3.1 外国人介護職員全般に行っている支援

- ・ 特になし。留学生時代は学校があるため、休みの希望があれば調整は行う。
- ・ 学校も試行錯誤で入学の受け入れをしていたので、文化の違いがあるときはこういう対応をしたほうがよいなど、最初の頃はよく情報交換をしていた。
- ・ 留学生は夜 20-21 時くらいまで働くため、委託業者と相談して、格安で夕食を提供している。宗教的に食べられないものにも配慮している。
- ・ 日本人・外国人問わず、施設長として、職員の顔色を見て愚痴を聞くことがある。リーダーに言えないこともあると思うので、声をかけている。

3.2 新人教育の概要（新人教育を外部の会社に委託）

- ・ 日本人・外国人問わず新入職員が配属されたユニットで、新人教育を委託している担当の方が週 3 日程度一緒に働き、OJT のような形で教育している。
- ・ 外国人介護職員から記録を見てほしいといわれ、日本語の指導を行うこともある。記録の場面では定型文になりがちであるが、その日の利用者の状態の変化を次のスタッフにしっかり伝えなければならないため、思っていることをどのように書くかを一緒に考えたりする。客観的に見てわからないときは、意味を確認することもある。
- ・ 教育を行うにあたり国籍による違いは全く感じていない。教育にあたり養成施設ルートで就労した外国人介護職員（日本語能力試験 N1、N2 レベル）は、ほとんど業務に支障がないと感じている。

4 在留資格「介護」受け入れによる変化

4.1 日本人職員の変化

- ・ 外国人介護職員が優秀で、日本人が負けなようにと奮起している。日本人が、外国人の勤勉さや優秀さに良いプレッシャーを感じている状態である。

4.2 利用者の変化

- ・ 利用者は、日本人職員、外国人介護職員についてあまり気にしていないように感じる。外国人介護職員は笑顔で丁寧に話を聞いてくれるので、利用者から喜ばれている。

5 課題

5.1 今後、在留資格「介護」の方が活躍するために必要なこと

- ・ 外国人介護職員は一生をかけて就職していることもあるので、それに応えられるようなサポート体制を法人で整えておくとよい。新人を受け入れる環境（新人を教育する担当を決めておくことや、悩みを聞けるような体制を整えること等）が必要と考える。

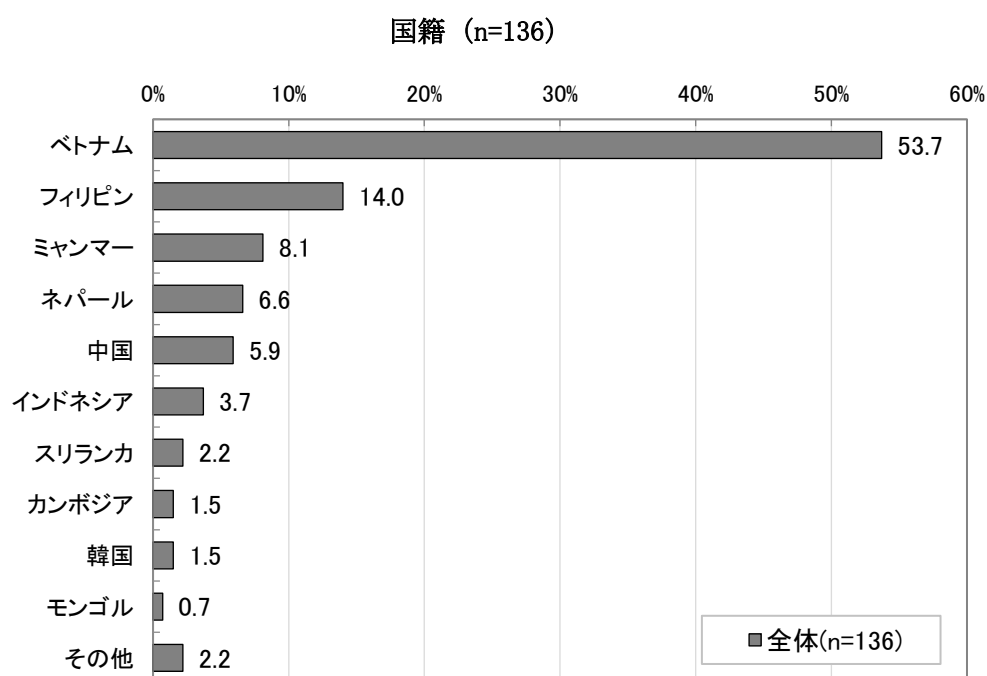
2. アンケート調査結果

(1) 外国人介護職員票

問1. 国籍

全体では、「ベトナム」が53.7% (73件) と最も高く、「フィリピン」が14.0% (19件)、「ミャンマー」が8.1% (11件)、「ネパール」が6.6% (9件)、「中国」が5.9% (8件)、「インドネシア」が3.7% (5件)、「スリランカ」が2.2% (3件)、「カンボジア」が1.5% (2件)、「韓国」が1.5% (2件)、「モンゴル」が0.7% (1件) となっている。

「その他」2.2% (3件) の回答は、バングラデシュ1件、不明2件となっている。

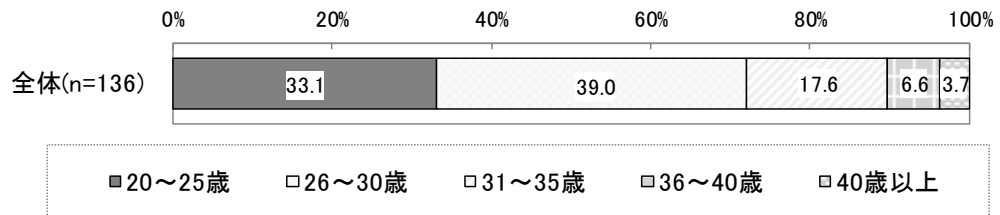


問2. 年齢

全体では、「26～30歳」が39.0% (53件) と最も高く、「20～25歳」が33.1% (45件)、「31～35歳」が17.6% (24件)、「36～40歳」が6.6% (9件)、「40歳以上」が3.7% (5件) となっている。

「平均」が28.5歳、「最小値」が20歳、「最大値」が46歳であった。

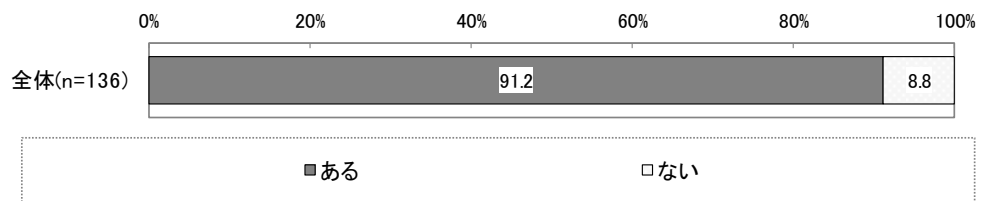
年齢 (n=136)



問 3. 介護福祉士国家試験の受験有無

全体では、「ある」が 91.2% (124 件)、「ない」が 8.8% (12 件) となっている。

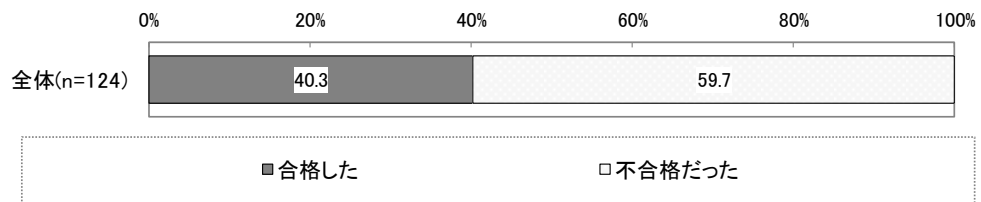
介護福祉士国家試験の受験有無 (n=136)



問 3-1. 介護福祉士国家試験の合否 【問 3 で「1. ある」と回答した方】

全体では、「合格した」が 40.3% (50 件)、「不合格だった」が 59.7% (74 件) となっている。

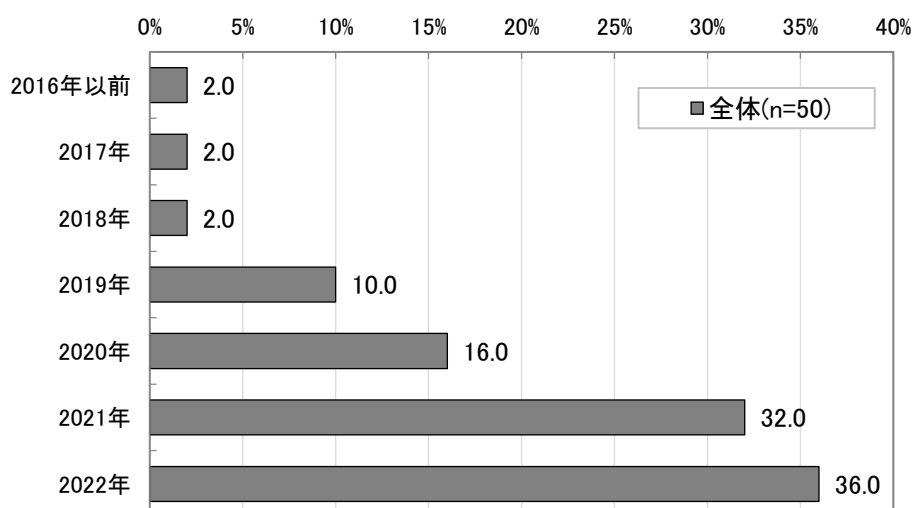
介護福祉士国家試験の合否 (n=124)



問 3-2. 介護福祉士国家試験に合格した年 【問 3-1 で「1. 合格した」と回答した方】

全体では、「2022 年」が 36.0% (18 件) と最も高く、「2021 年」が 32.0% (16 件)、「2020 年」が 16.0% (8 件)、「2019 年」が 10.0% (5 件)、「2017 年」が 2.0% (1 件)、「2018 年」が 2.0% (1 件)、「2016 年以前」が 2.0% (1 件) となっている。

介護福祉士国家試験に合格した年 (n=50)

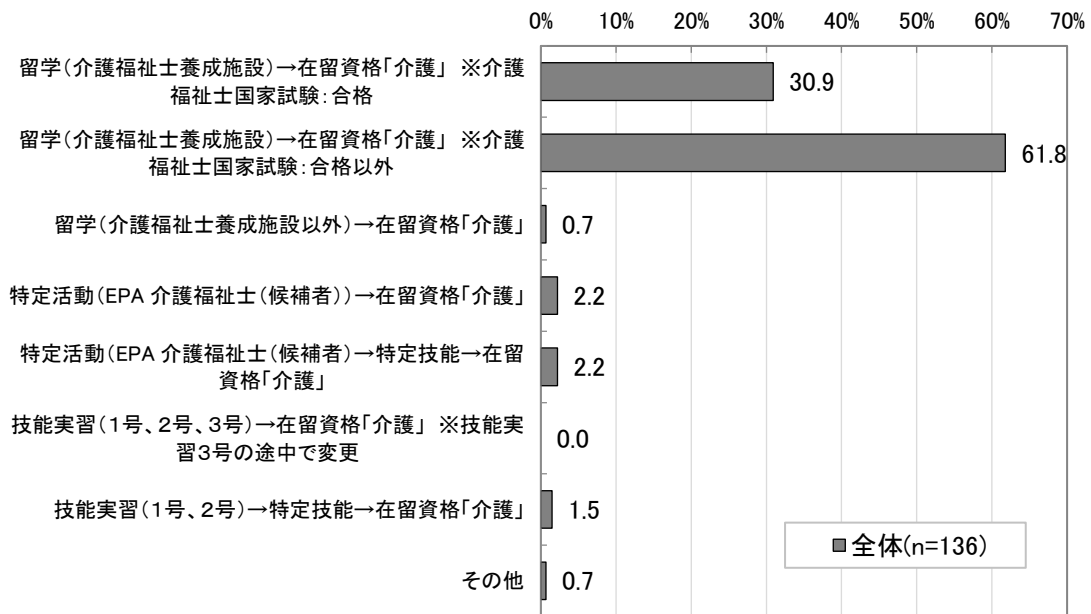


問 4. 来日から現在までの在留資格

全体では、「留学（養成施設）→在留資格「介護」 ※介護福祉士国家試験：合格以外」が 61.8%（84 件）と最も高く、「留学（養成施設）→在留資格「介護」 ※介護福祉士国家試験：合格」が 30.9%（42 件）、「特定活動（EPA 介護福祉士（候補者））→在留資格「介護」」が 2.2%（3 件）、「特定活動（EPA 介護福祉士（候補者））→特定技能→在留資格「介護」」が 2.2%（3 件）、「技能実習（1号、2号）→特定技能→在留資格「介護」」が 1.5%（2 件）、「留学（養成施設以外）→在留資格「介護」」が 0.7%（1 件）となっている。

「その他」0.7%（1 件）の回答は、「特定活動（EPA 介護福祉士（候補者））→帰国→技能実習（1号、2号）→在留資格「介護」」があった。

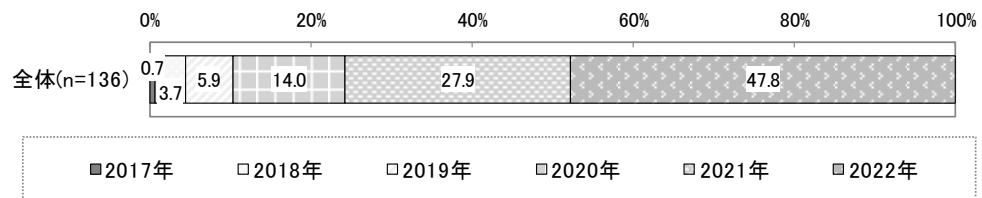
来日から現在までの在留資格 (n=136)



問 4-1. 在留資格「介護」に切り替えた年

全体では、「2022年」が47.8% (65件)と最も高く、「2021年」が27.9% (38件)、「2020年」が14.0% (19件)、「2019年」が5.9% (8件)、「2018年」が3.7% (5件)、「2017年」が0.7% (1件)となっている。

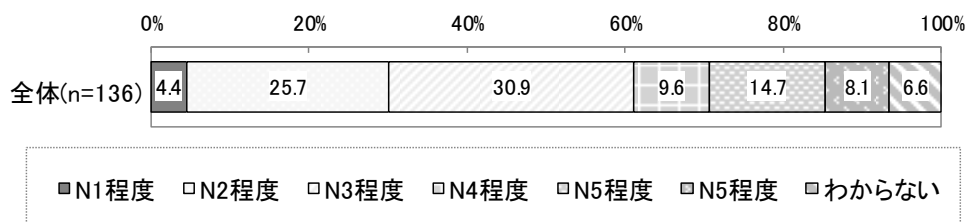
在留資格「介護」に切り替えた年 (n=136)



問 5-1. 来日したときの日本語能力 (日本語能力試験でどのくらいのレベルか)

全体では、「N3程度」が30.9% (42件)と最も高く、「N2程度」が25.7% (35件)、「N5程度」が14.7% (20件)、「N4程度」が9.6% (13件)、「N5程度以下」が8.1% (11件)、「N1程度」が4.4% (6件)、「わからない」が6.6% (9件)となっている。

来日したときの日本語能力 (n=136)

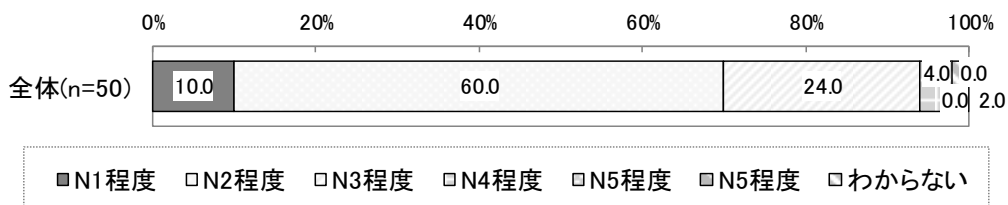


注) N1程度 (NAT-TEST 1級、J-TEST「A-C レベル試験」 準B級以上)
 N2程度 (NAT-TEST 2級、J-TEST「A-C レベル試験」 C級)
 N3程度 (NAT-TEST 3級、J-TEST「D-E レベル試験」 D級)
 N4程度 (NAT-TEST 4級、J-TEST「D-E レベル試験」 E級)
 N5程度 (NAT-TEST 5級、J-TEST「F-G レベル試験」 F級)
 N5程度以下 (J-TEST「F-G レベル試験」 G級)

問 5-2. 介護福祉士国家資格に合格したとき (合格者のみ) の日本語能力 (日本語能力試験でどのくらいのレベルか) 【問 3-1 で「1. 合格した」と回答した方】

全体では、「N2程度」が 60.0% (30 件) と最も高く、「N3程度」が 24.0% (12 件)、「N1程度」が 10.0% (5 件)、「N4程度」が 4.0% (2 件)、「わからない」が 2.0% (1 件) となっている。

介護福祉士国家資格に合格したとき (合格者のみ) の日本語能力 (n=50)

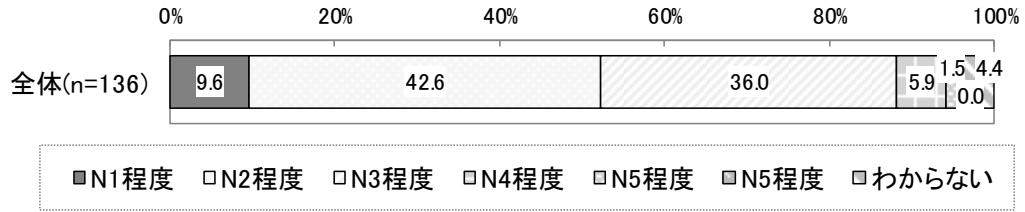


注) N1程度 (NAT-TEST 1級、J-TEST「A-C レベル試験」 準B級以上)
 N2程度 (NAT-TEST 2級、J-TEST「A-C レベル試験」 C級)
 N3程度 (NAT-TEST 3級、J-TEST「D-E レベル試験」 D級)
 N4程度 (NAT-TEST 4級、J-TEST「D-E レベル試験」 E級)
 N5程度 (NAT-TEST 5級、J-TEST「F-G レベル試験」 F級)
 N5程度以下 (J-TEST「F-G レベル試験」 G級)

問 5-3. 現在の日本語能力 (日本語能力試験でどのくらいのレベルか)

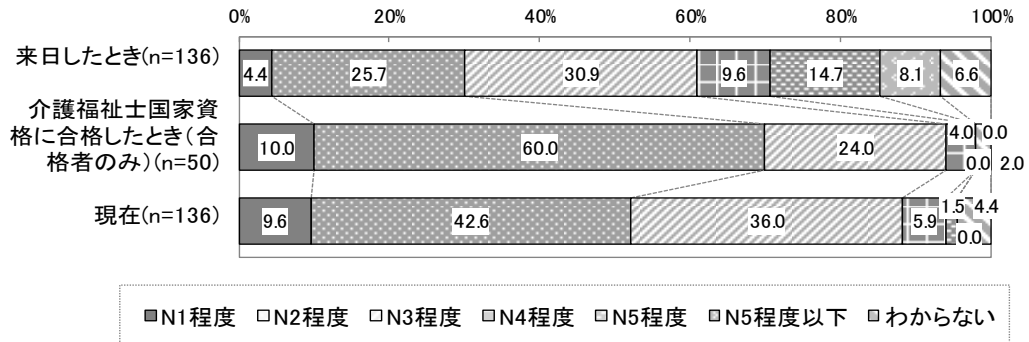
全体では、「N2程度」が 42.6% (58 件) と最も高く、「N3程度」が 36.0% (49 件)、「N1程度」が 9.6% (13 件)、「N4程度」が 5.9% (8 件)、「N5程度」が 1.5% (2 件)、「わからない」が 4.4% (6 件) となっている。

現在の日本語能力 (n=136)



注) N1程度 (NAT-TEST 1級、J-TEST 「A-C レベル試験」 準B級以上)
 N2程度 (NAT-TEST 2級、J-TEST 「A-C レベル試験」 C級)
 N3程度 (NAT-TEST 3級、J-TEST 「D-E レベル試験」 D級)
 N4程度 (NAT-TEST 4級、J-TEST 「D-E レベル試験」 E級)
 N5程度 (NAT-TEST 5級、J-TEST 「F-G レベル試験」 F級)
 N5程度以下 (J-TEST 「F-G レベル試験」 G級)

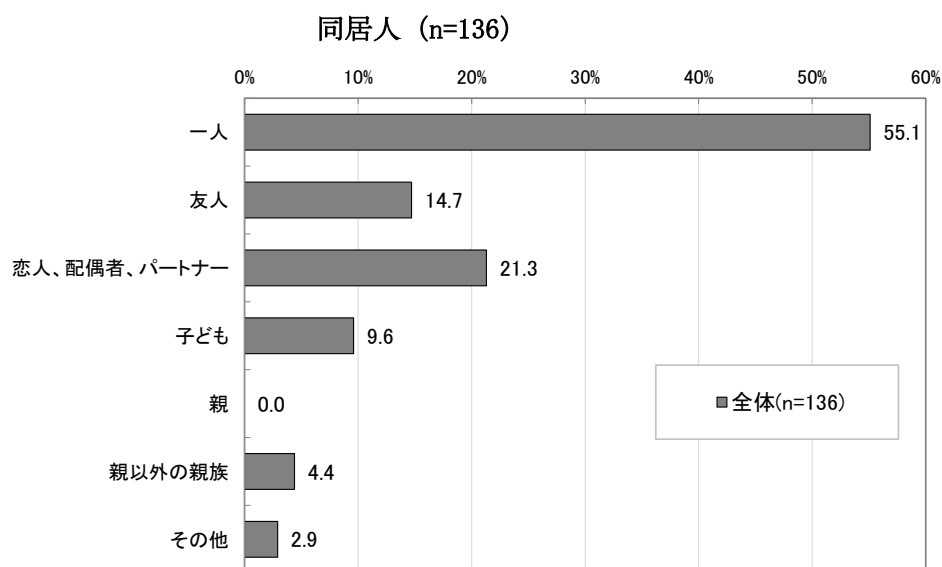
(全体) 来日・介護福祉士国家試験合格時・現在の日本語能力 (n=136)



注) N1程度 (NAT-TEST 1級、J-TEST 「A-C レベル試験」 準B級以上)
 N2程度 (NAT-TEST 2級、J-TEST 「A-C レベル試験」 C級)
 N3程度 (NAT-TEST 3級、J-TEST 「D-E レベル試験」 D級)
 N4程度 (NAT-TEST 4級、J-TEST 「D-E レベル試験」 E級)
 N5程度 (NAT-TEST 5級、J-TEST 「F-G レベル試験」 F級)
 N5程度以下 (J-TEST 「F-G レベル試験」 G級)

問 6. 同居人（複数選択）

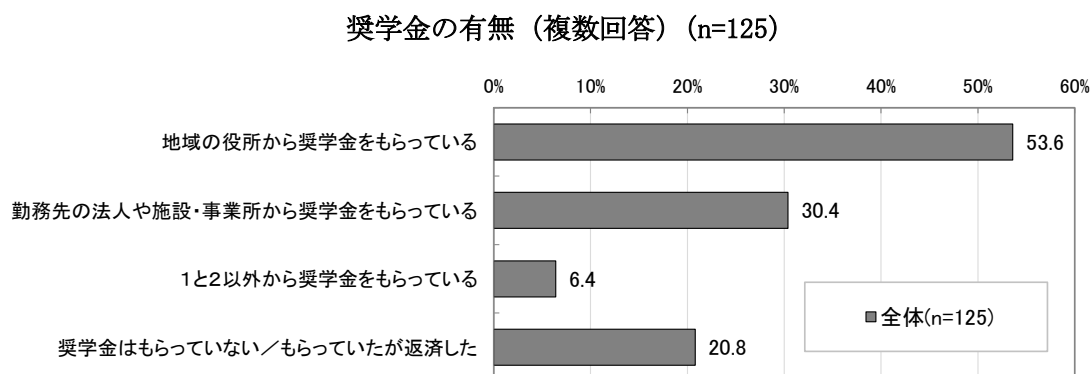
全体では、「一人」が 55.1% (75 件) と最も高く、「恋人、配偶者、パートナー」が 21.3% (29 件)、「友人」が 14.7% (20 件)、「子ども」が 9.6% (13 件)、「親以外の親族」が 4.4% (6 件)、「その他」が 2.9% (4 件) となっている。「その他」には、「同僚 (外国人)」(2 件) の回答があった。



問 6-1. 奨学金の有無（複数選択） 【問 4 で「1、2. 留学（養成施設）→在留資格「介護」」「3. 留学（養成施設以外）→在留資格「介護」と回答した方】

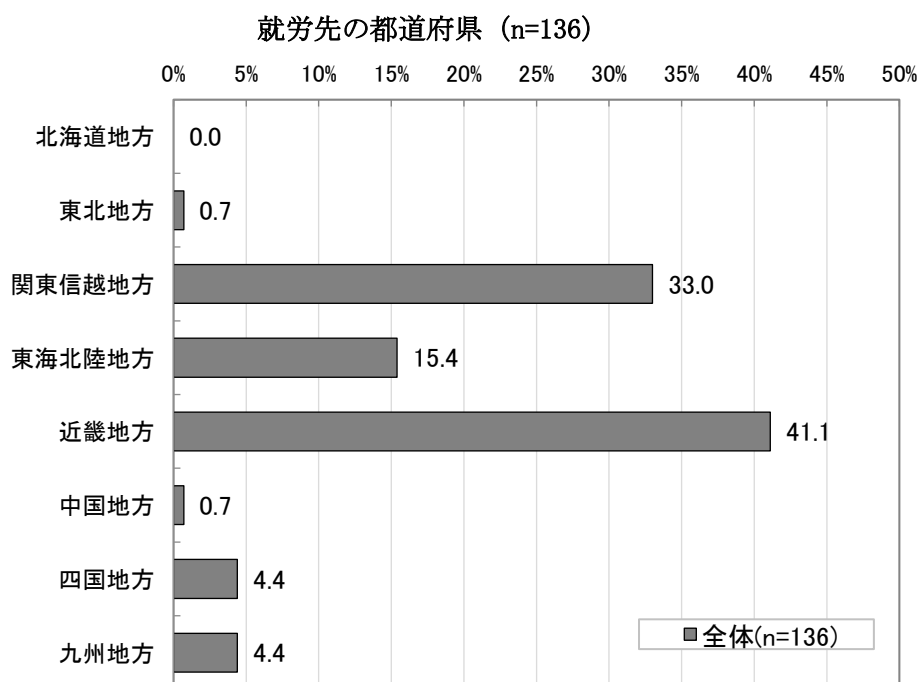
全体では、「地域の役所から奨学金をもらっている」が 53.6% (67 件) と最も高く、「勤務先の法人や施設・事業所から奨学金をもらっている」が 30.4% (38 件)、「奨学金はもらっていない／もらっていたが返済した」が 20.8% (26 件)、「1 と 2 以外から奨学金をもらっている」が 6.4% (8 件) となっている。

「1 と 2 以外から奨学金をもらっている」には、「NPO」「学校」等の回答があった。



問 7. 就労先の都道府県

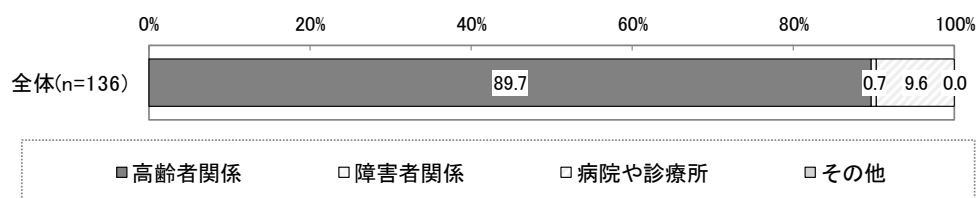
全体では、「近畿地方」が 41.1% (56 件) と最も高く、「関東信越地方」が 33.0% (45 件)、「東海北陸地方」が 15.4% (21 件)、「四国地方」と「九州地方」が 4.4% (6 件)、「東北地方」と「中国地方」が 0.7% (1 件) となっている。



問 8. 就労先の事業内容 (サービス種別)

全体では、「高齢者関係」が 89.7% (122 件) と最も高く、「病院や診療所」が 9.6% (13 件)、「障害者関係」が 0.7% (1 件) となっている。

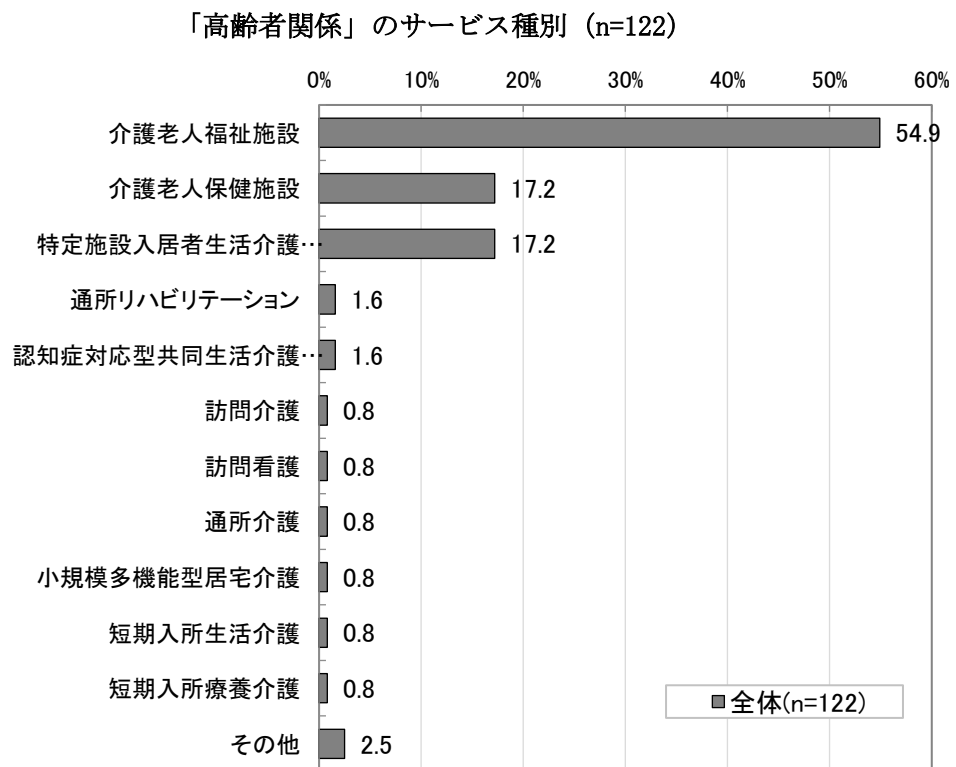
就労先の事業内容 (サービス種別) (n=136)



➤ 「高齢者関係」のサービス種別の内訳

全体では、「介護老人福祉施設」が 54.9% (67 件) と最も高く、「介護老人保健施設」が 17.2% (21 件)、「特定施設入居者生活介護 (有料老人ホーム、軽費老人ホームなど)」が 17.2% (21 件)、「通所リハビリテーション」と「認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)」が 1.6% (2 件)、「訪問介護」「訪問看護」「通所介護」「短期入所生活介護」が 0.8% (1 件) となっている。

「その他」の回答は、不明である。



➤ 「障害者関係」のサービス種別の内訳

「障害者支援施設」が 100.0% (1 件) となっている。

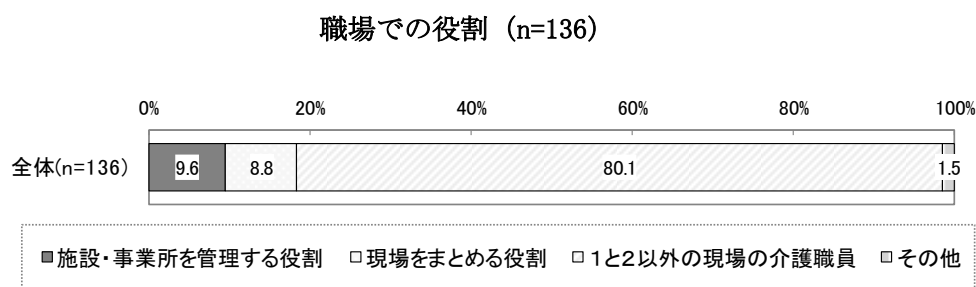
➤ 「病院や診療所」のサービス種別の内訳

「病院」が 100.0% (13 件) となっている。

問 9. 職場での役割

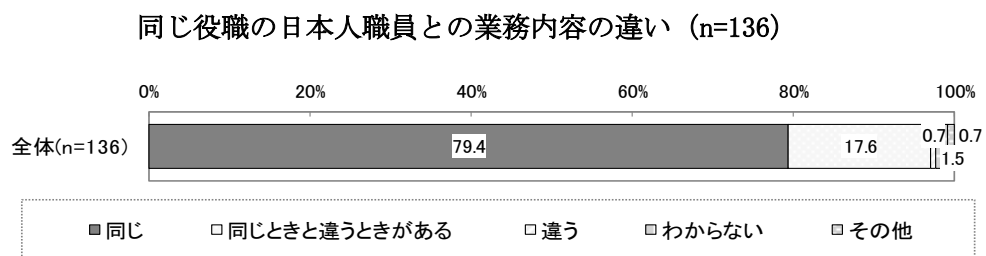
全体では、「1と2以外の現場の介護職員」が80.1%（109件）と最も高く、「施設・事業所を管理する役割」が9.6%（13件）、「現場をまとめる役割」が8.8%（12件）となっている。「その他」の回答は、不明である。

「施設・事業所を管理する役割」と回答した者は、20代後半に偏りがあることから、「現場をまとめる役割」と混同した可能性が考えられる。



問 10. 同じ役職の日本人職員との業務内容の違い（施設内の委員会活動は除く）

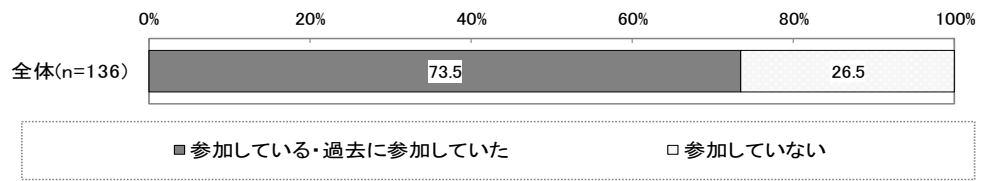
全体では、「同じ」が79.4%（108件）と最も高く、「同じときと違うときがある」が17.6%（24件）、「違う」が0.7%（1件）、「わからない」が1.5%（2件）となっている。「違う」と回答した方の業務内容の違いは、不明である。



問 10-2. 施設内の委員会活動の参加有無

全体では、「参加している・過去に参加していた」が73.5%（100件）、「参加していない」が26.5%（36件）となっている。

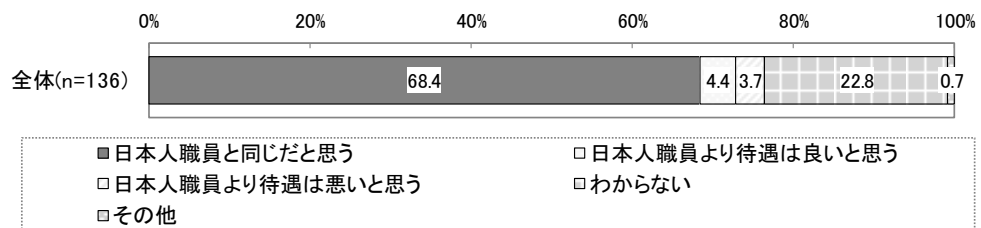
施設内の委員会活動の参加有無 (n=136)



問 11. 同じ役職の日本人職員との待遇（給与、福利厚生、勤務時間など）の違い

全体では、「日本人職員と同じだと思う」が 68.4% (93 件) と最も高く、「日本人職員より待遇は良いと思う」が 4.4% (6 件)、「日本人職員より待遇は悪いと思う」が 3.7% (5 件)、「わからない」が 22.8% (31 件) となっている。

同じ役職の日本人職員との待遇（給与、福利厚生、勤務時間など）の違い (n=136)

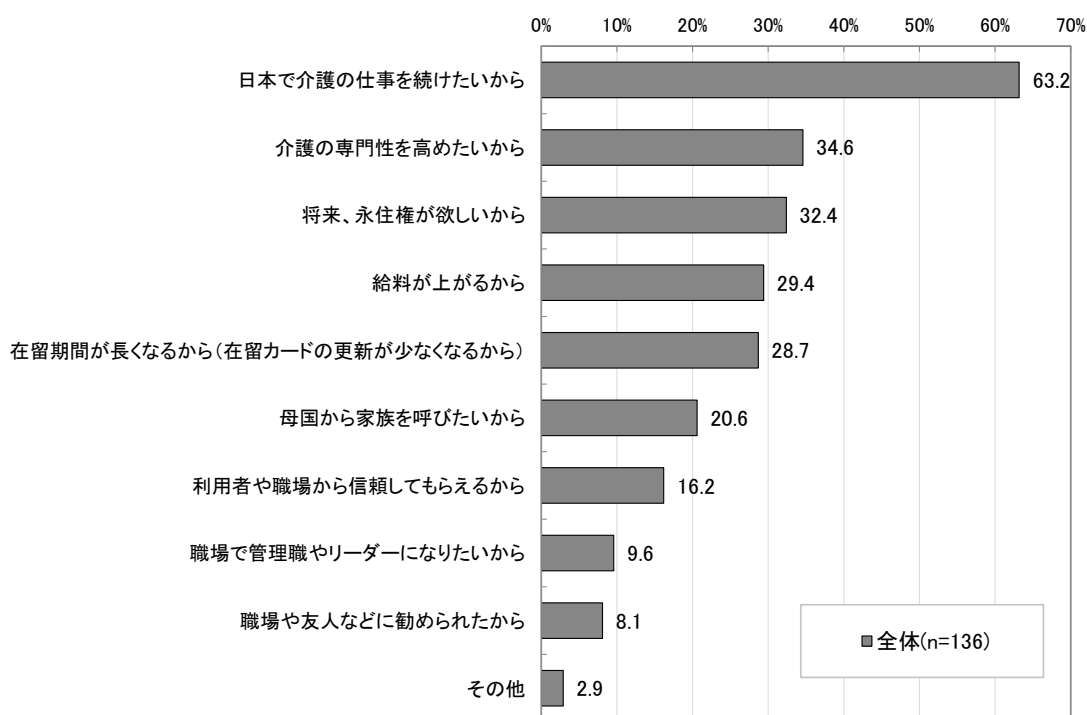


問 12. 介護福祉士を取りたいと思った理由（複数選択）

全体では、「日本で介護の仕事が続けたいから」が 63.2% (86 件) と最も高く、「介護の専門性を高めたいから」が 34.6% (47 件)、「将来、永住権が欲しいから」が 32.4% (44 件)、「給料が上がるから」が 29.4% (40 件)、「在留期間が長くなるから (在留カードの更新が少なくなるから)」が 28.7% (39 件)、「母国から家族を呼びたいから」が 20.6% (28 件)、「利用者や職場から信頼してもらえるから」が 16.2% (22 件)、「職場で管理職やリーダーになりたいから」が 9.6% (13 件)、「職場や友人などに勧められたから」が 8.1% (11 件) となっている。

「その他」の回答には、「国に介護の学校がなかったため、これから介護資格が必要になると思っています」「日本が好きだから」「介護福祉士は役に立つ仕事だから。高齢者はお世話をして欲しい」があった。

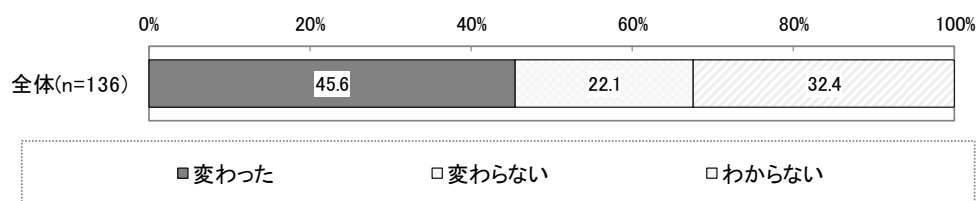
介護福祉士を取りたいと思った理由（複数選択）（n=136）



問 13. 介護福祉士になる前後での待遇（給与、福利厚生、勤務時間など）の変化

全体では、「変わった」が 45.6% (62 件)、「変わらない」が 22.1% (30 件)、「わからない」が 32.4% (44 件) となっている。

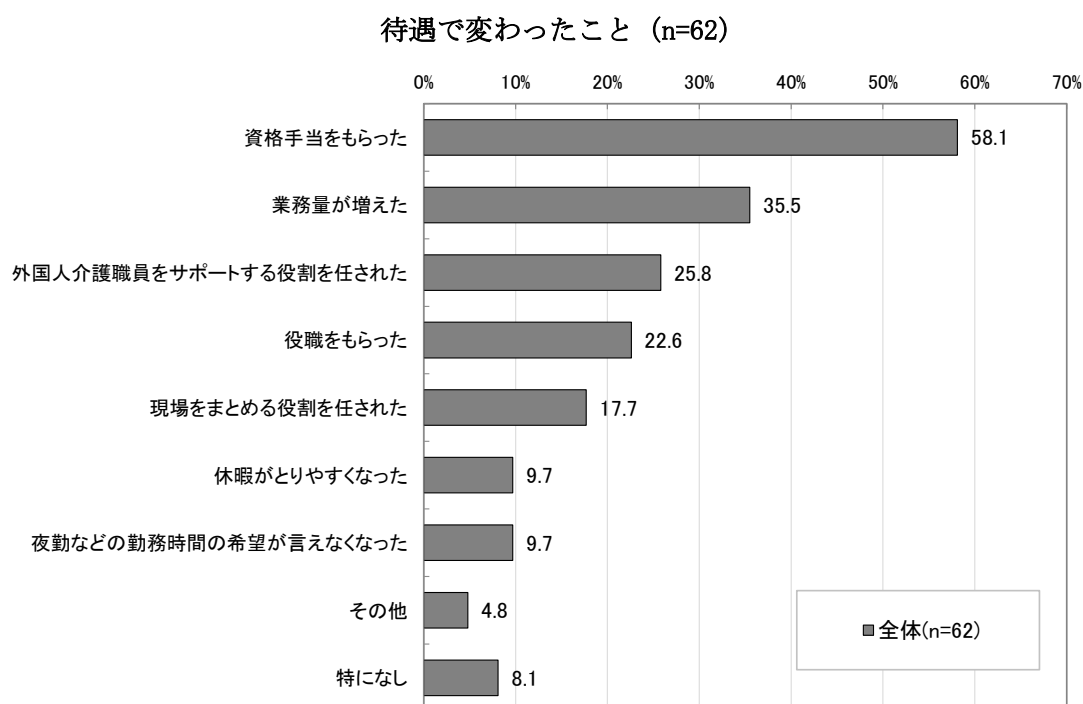
介護福祉士になる前後での待遇（給与、福利厚生、勤務時間など）の変化（n=136）



問 13-1. 待遇で変わったこと（複数選択） 【問 13 で「1. 変わった」と回答した方】

全体では、「資格手当をもらった」が 58.1%（36 件）と最も高く、「業務量が増えた」が 35.5%（22 件）、「外国人介護職員をサポートする役割を任された」が 25.8%（16 件）、「役職をもらった」が 22.6%（14 件）、「現場をまとめる役割を任された」が 17.7%（11 件）、「休暇がとりやすくなった」が 9.7%（6 件）、「夜勤などの勤務時間の希望が言えなくなった」が 9.7%（6 件）となっている。また、「特になし」が 8.1%（5 件）となっている。

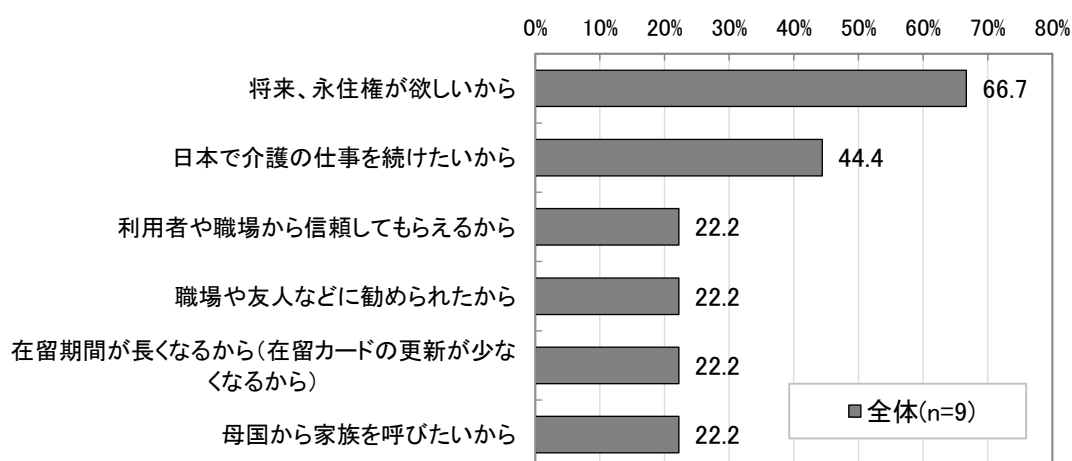
「その他」の回答には、「いつも同じ曜日休みではなくなった」があった。



問 14. 在留資格「介護」への変更理由（複数選択） 【問 4 で「1. 留学（養成施設）→在留資格「介護」※介護福祉士合格」「2. 留学（養成施設）→在留資格「介護」※介護福祉士合格以外」以外と回答した方】

全体では、「将来、永住権が欲しいから」が 66.7%（6 件）と最も高く、「日本で介護の仕事を続けたいから」が 44.4%（4 件）、「利用者や職場から信頼してもらえるから」「職場や友人などに勧められたから」「在留期間が長くなるから（在留カードの更新が少なくなるから）」「母国から家族を呼びたいから」が 22.2%（2 件）となっている。

在留資格「介護」への変更理由（複数選択）（n=9）

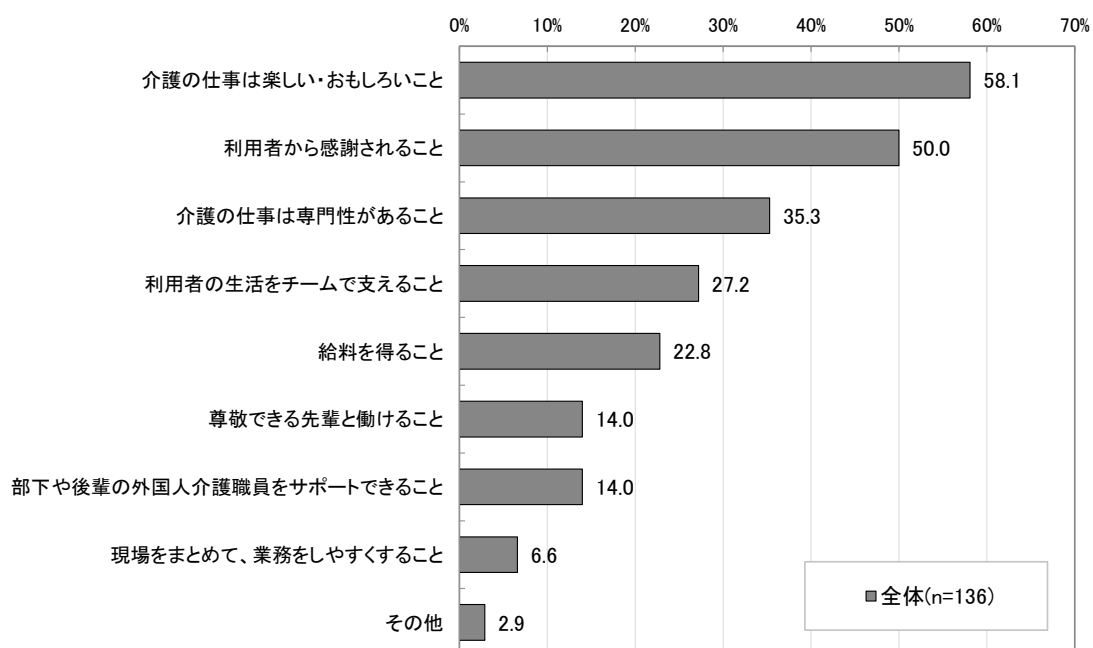


問 15. 介護福祉士として働くときの「やりがい」（3つまで選択）

全体では、「介護の仕事は楽しい・おもしろいこと」が 58.1% (79 件) と最も高く、「利用者から感謝されること」が 50.0% (68 件)、「介護の仕事は専門性があること」が 35.3% (48 件)、「利用者の生活をチームで支えること」が 27.2% (37 件)、「給料を得ること」が 22.8% (31 件)、「尊敬できる先輩と働けること」が 14.0% (19 件)、「部下や後輩の外国人介護職員をサポートできること」が 14.0% (19 件)、「現場をまとめて、業務をしやすくすること」が 6.6% (9 件) となっている。

「その他」の回答には、「辞めたい」が 1 件あった。

あなたが介護福祉士として働くときの「やりがい」（3つまで選択）（n=136）



問 16. 介護福祉士を受験するまでに「受けた支援」と「ほしかった支援」（複数選択）

【問 3 で「介護福祉士国家試験を受験した」と回答した方】

<受けた支援>

「学習面」については、「介護の知識や技術の学習支援」が 54.1% (66 件) と最も高く、「日本語学習支援」が 50.8% (62 件)、「介護福祉士の受験費用や模擬試験の費用支援」が 27.9% (34 件)、「自分一人で勉強するための e-ラーニングやアプリ」が 17.2% (21 件)「業務時間内に学習時間をつくる」が 14.8% (18 件)、と続いている。

「環境面」については、「何でも相談できる職員の配置」が 46.7% (57 件) と最も高く、「奨学金の貸付」が 23.0% (28 件)、「勤務時間や休憩の調整」と「住居を選ぶ、契約するときの支援」が 18.9% (23 件)、「通訳や母国語を話せるスタッフの配置」が 12.3% (15 件)、「食事会や外出イベントなどの職員同士の交流の場」が 11.5% (14 件)、と続いている。

「その他」の回答には、「他職員と相談しながら、協力できる体制」とあった。「特になし」は 13.1% (16 件) となっている。

<欲しかった支援>

「学習面」については、「日本語学習支援」が 41.2% (56 件) と最も高く、「介護の知識や技術の学習支援」が 35.3% (48 件)、「介護福祉士の受験費用や模擬試験の費用支援」が 33.8% (46 件)、「翻訳付きの本やテキストの配布」が 18.4% (25 件)、自分一人で勉強するための e-ラーニングやアプリ」が 18.4% (25 件)、と続いている。

「環境面」については、「何でも相談できる職員の配置」が 46.3% (63 件) と最も高く、「食料支給や生活費の一部補助」が 22.1% (30 件)、「通訳や母国語を話せるスタッフの配置」が 16.9% (23 件)、「住居を選ぶ、契約するときの支援」が 15.4% (21 件)、「翻訳機やコミュニケーションボードなどの配布」が 14.0% (19 件) と続いている。

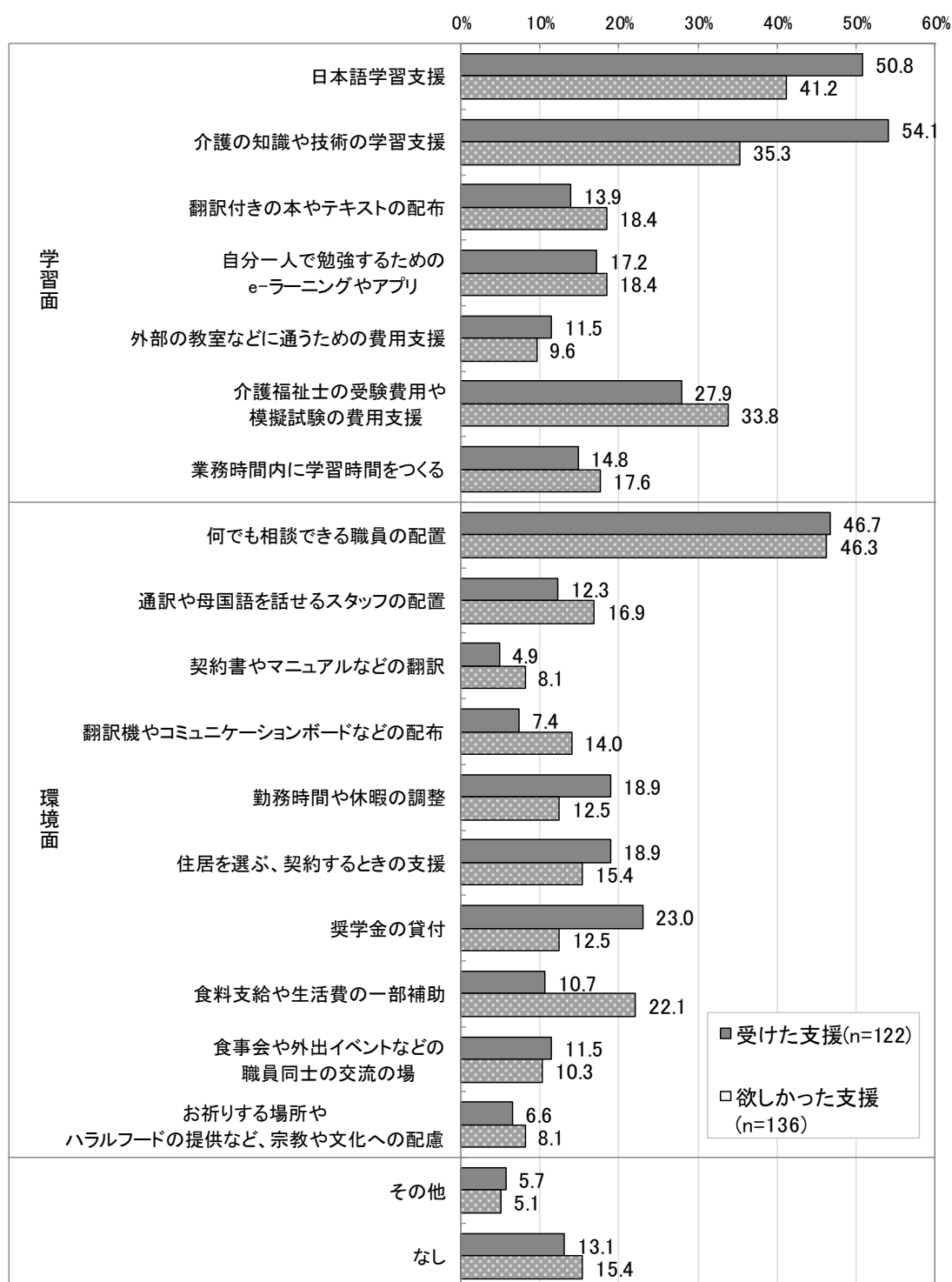
「その他」の回答には、「VISA の期限を 1 年から複数年に延長してほしい。コロナ禍で、外出するのがはばかれる中、更新手続きが煩雑。」とあった。「特になし」は 15.4% (21 件) となっている。

<「受けた支援」よりも「欲しかった支援」が上回っている項目>

「学習面」については、介護福祉士国家試験に不合格または未受験の者が多いこともあり、「介護福祉士の受験費用や模擬試験の費用支援」「翻訳付きの本やテキストの配布」「自分一人で勉強するための e-ラーニングやアプリ」等、試験に関係する項目が「欲しかった支援」としてあがってきていると考えられる。

「環境面」では、「通訳や母国語を話せるスタッフの配置」等の言語に関係する支援に加え、「食料支給や生活費の一部補助」が「欲しかった支援」として多くあがっており、介護福祉士国家試験受験前は、費用的な困難を抱えている者が多いと考えられる。

介護福祉士を受験するまでに、「受けた支援」と「ほしかった支援」（複数選択）



問 17. 今後も介護福祉士として働くために、必要な支援（自由記述）

（主なご意見） ※文意を損なわない範囲で修正を加えている場合があります。

【言語面の支援】

- ・ 日本語が上手になりたいです、知識や技術を増やしたいです。
- ・ 日本語支援が欲しいです。
- ・ 利用者に適切な支援を届ける為に、ご家族や介護者、地域の方々等と連携することが必要となります。それが上手く出来る為に、私は外国人の介護士として仕事をしながら、もっと日本語を勉強できる環境を整備して欲しいです。
- ・ 方言などわからない言葉の支援があるといいです。
- ・ 介護福祉士として働くために、私に仕事をする時最初は日本語のレベルが上がりたいたいです。指示とか申し送りを書く時書き方にして上手く書けないので日本語のレベルが上がりたいたいです。利用者さんと家族さんとコミュニケーションをする時も話す事に支援貰いたいたいです。
- ・ 母国語を話せるスタッフの配置があるといい。
- ・ 英語を話せる担当者がいるといい。
- ・ わからない事がある時は具体的な説明出来る人が居て欲しい。

【国家試験受験のための支援】

- ・ 介護福祉士国家試験受けたいたいたいです。日本語での勉強が難しい為、翻訳している本やソフトアプリ、受験時も母語で受けられるようになって欲しいです。
- ・ 国家試験の費用支援欲しいです。
- ・ 外国人向けの介護福祉士国家試験の学習支援が欲しい。

【技術・知識面の支援】

- ・ 介護福祉士を合格した先輩からもっと介護関係の経験を勉強したいです。
- ・ 介護福祉士の知識やスキル高めるために、これからも研修などに参加させて欲しいです。
- ・ 介護の技術とコミュニケーションについてもっと教えてもらいたいたいです。
- ・ 介護の知識や技術の学習支援
- ・ 介護福祉士になると、施設より介護専門用関係が色々と教えてもらいたいたいです。
- ・ 何でも相談できる専門の職員の配置、記録の書き方などの定期的な指導
- ・ 介護福祉士として働くために、施設では利用者様のいろいろコミュニケーションと技術、介護の知識もっと条件付けたいだと思いたいたいです。
- ・ 介護の現場の中で利用者の役割事学んで。利用者の日常生活できるように働いていいたいたいです。

【待遇面の支援】

- ・ 給料が上がって欲しい。
- ・ 収入を稼ぐ方法を増やして欲しい。
- ・ 給与が手取り 20 万円ぐらいは欲しい。
- ・ 給料とボーナスを上げて欲しい。
- ・ 資格手当をもらいたい。
- ・ もっと働きたいけど、働けない、収入方法が足りない為困った。学生の時がお得であった。
- ・ 休暇をとりやすくしてほしい。月々の公休をもっと自由に決めたい（月々に2日しか希望できないから）。
- ・ 国へ帰る時(休暇) できれば1ヶ月程度欲しい。
- ・ 勤務時間の調整。(遅番から次の日早番; 夜勤明けから次の日早番の勤務はできればやめて欲しい)
- ・ 重要な文書や情報は、第二言語で識別する必要がある。(通訳や母国語を話せるスタッフの配置)

【生活面の支援】

- ・ 外国人として家賃手当がほしい。
- ・ 日本生活費が高いため、家賃手当が欲しいです。
- ・ アパート、ガス、電気、水道が無料だとよい。
- ・ 無料の宿泊施設の提供。
- ・ 家賃や光熱費を少し援助してもらいたい。
- ・ 生活の中で困った事がある時、支援を頂ける事です。
- ・ ひとり親で中学の子供がいるから学費の返済について支援してほしいです。
- ・ 外国人に何かある時、相談できるところ。
- ・ 食料サポート支援の実施。
- ・ 腰が痛いので貼り薬を一ヶ月 15 枚ぐらいちょうだい！

【在留資格に関する事】

- ・ 大学を通過して介護福祉士になったので試験に合格・不合格関係無く5年ビザがもらえたら嬉しいです。1年ごとに更新すると時間やお金も沢山かかるし、日本で何も出来ません。すごく困っています。
- ・ 日本の高齢者のお世話をしているけど自分の両親のお世話が出来なくなっている。自分の両親と日本で一緒に住む事が出来る制度があれば幸いです。
- ・ 日本で長い時間に安心して働くために、在留期間が長くなってほしいです。
- ・ 日本で介護福祉士として働いている外国人は帰国期間が緩くなるような支援が欲しいです。

【その他】

- ・ 外国人でも働きやすい職場環境です。
- ・ 職場で人間関係が悪くならないように！
- ・ 仕事場をもっと雰囲気が良いことです。職員たちが相談しやすいもっと良いです。
- ・ みんな楽しく仕事ができる。
- ・ 利用者さんの気持ち安全のために介護をしたいです。
- ・ 利用者が安心できるよう支援が欲しいです。
- ・ 尊厳できる場所で働きたいと思います。
- ・ 自分として何でも出来るようになりたい。
- ・ 判断を下したりアドバイスを与えたりせずに自分のニーズに耳を傾ける誰かが必要です。
- ・ 優しく、安全、尊重する。

問 18. 現在、あなたが仕事で困っていること（複数選択）

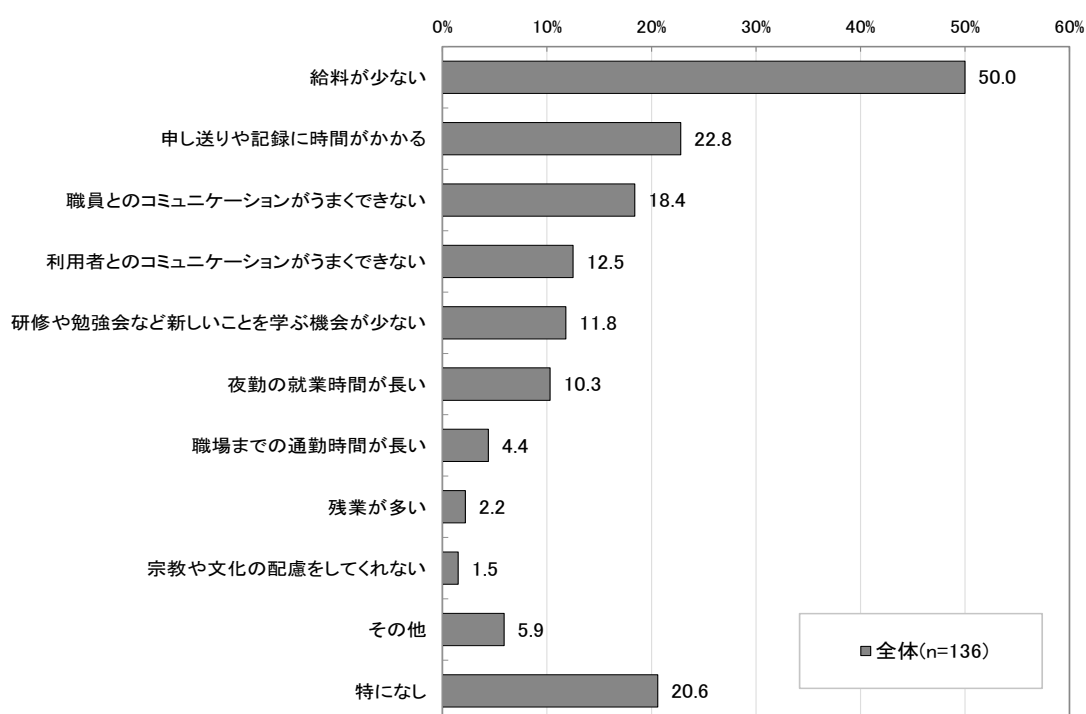
全体では、「給料が少ない」が 50.0% (68 件) と最も高く、「申し送りや記録に時間がかかる」が 22.8% (31 件)、「職員とのコミュニケーションがうまくできない」が 18.4% (25 件)、「利用者とのコミュニケーションがうまくできない」が 12.5% (17 件)、「研修や勉強会など新しいことを学ぶ機会が少ない」が 11.8% (16 件)、「夜勤の就業時間が長い」が 10.3% (14 件)、「職場までの通勤時間が長い」が 4.4% (6 件)、「残業が多い」が 2.2% (3 件)、「宗教や文化の配慮をしてくれない」が 1.5% (2 件) となっている。また「特になし」は 20.6% (28 件) となっている。

「その他」の回答には、以下の内容が含まれる。

(主なご意見) ※文意を損なわない範囲で修正を加えている場合があります。

- ・ 申し送りがうまく出来ない。
- ・ 緊急時について教えてもらっていないので、看護師に応援できない。
- ・ 腰が痛い。
- ・ ボーナスが少ない。
- ・ 残業が少ない。
- ・ 帰国時間を長くしたい。
- ・ ご利用者の家族とコミュニケーションを取り、悩み事を解決すること
- ・ 職場で電話対応すること

現在、あなたが仕事で困っていること（複数選択）（n=136）

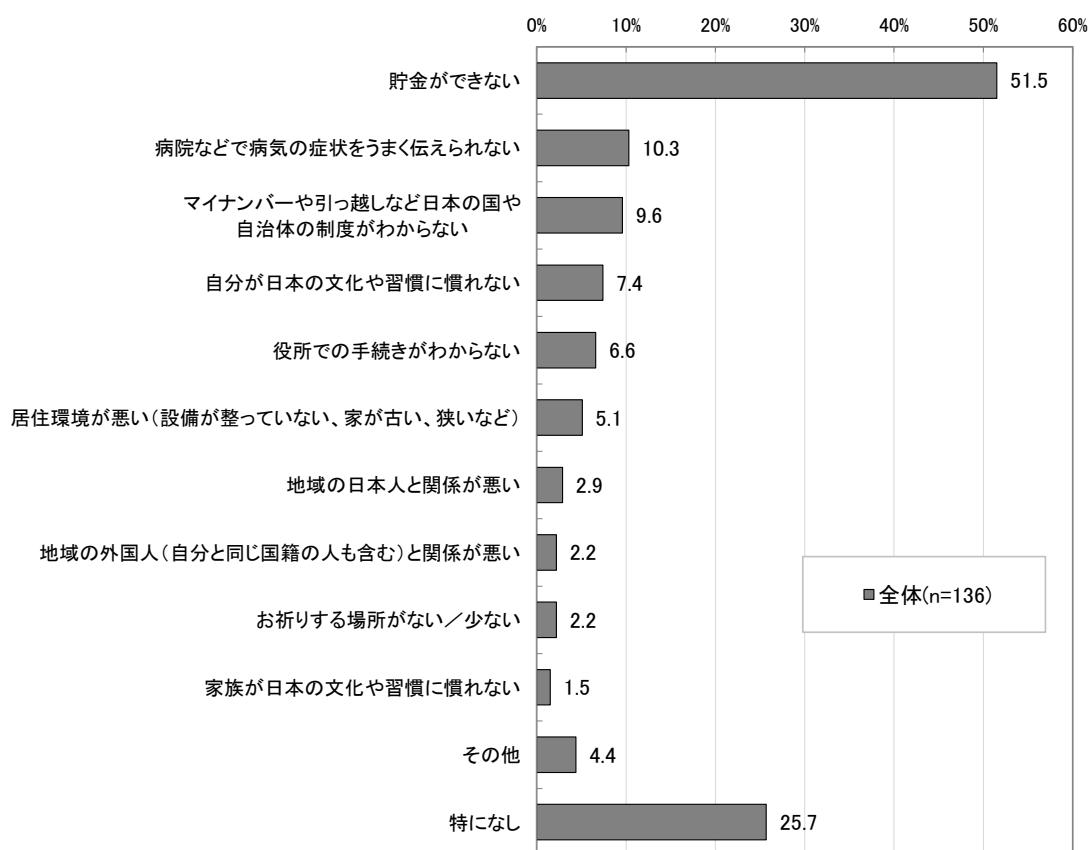


問 19. 現在、あなたが生活で困っていること（複数選択）

全体では、「貯金ができない」が 51.5%（70 件）と最も高く、「病院などで病気の症状をうまく伝えられない」が 10.3%（14 件）、「マイナンバーや引っ越しなど日本の国や自治体の制度がわからない」が 9.6%（13 件）、「自分が日本の文化や習慣に慣れない」が 7.4%（10 件）、「役所での手続きがわからない」が 6.6%（9 件）と続いている。また「特になし」が 25.7%（35 件）となっている。

「その他」の回答には、「賃貸マンションは日本人の保証人がいないと借りることができない」「お金が足りない」があった。

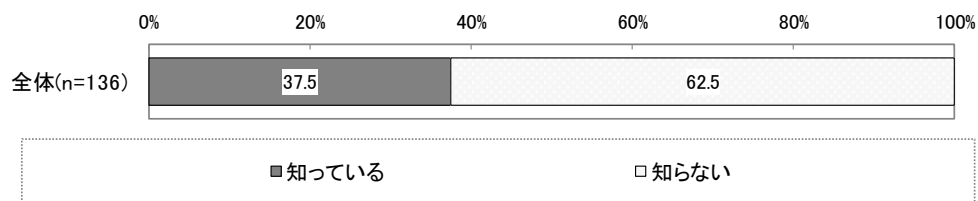
現在、あなたが生活で困っていること（複数選択）（n=136）



問 20. 困ったときに相談できる外国人向けサポートセンターなどの相談機関の認知

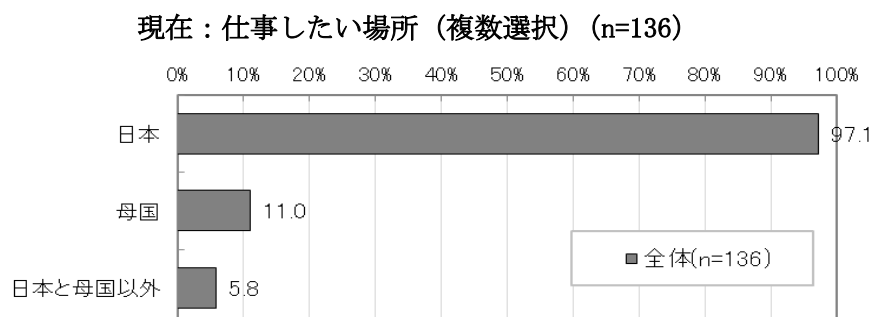
全体では、「知っている」が 37.5% (51 件)、「知らない」が 62.5% (85 件) となっている。

外国人向けサポートセンターなどの相談機関の認知 (n=136)



問 21 [A]. 現在：仕事をしたい場所（複数選択）

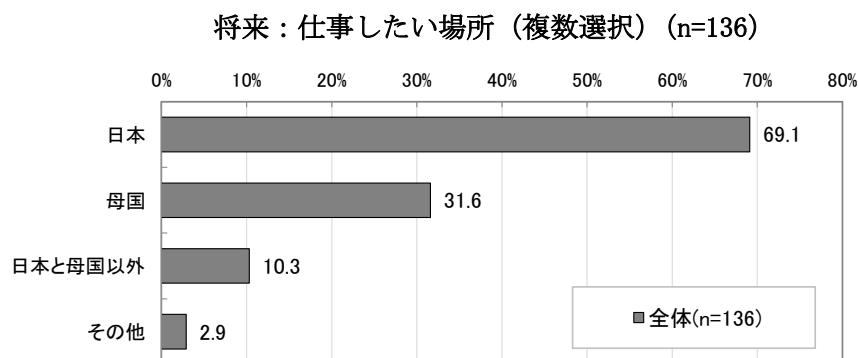
全体では、「日本」が 97.1%（132 件）、「母国」が 11.0%（15 件）、「日本と母国以外」が 5.8%（7 件）となっている。



問 21 [B]. 将来：仕事をしたい場所（複数選択）

全体では、「日本」が 69.1%（94 件）、「母国」が 31.6%（43 件）、「日本と母国以外」が 10.3%（14 件）となっている。「その他」には、「わからない」との回答があった。

「現在：仕事をしたい場所」と比べ、「日本」を回答した者が減少し、「母国」「日本と母国以外」を回答した者が増加した。



問 21.1 [A]. 現在：したい仕事内容（複数選択）【問 21 [A]で「各選択肢」を回答した方】

<日本>

全体では、「介護職として介護の技術や能力を高めたい」が 81.1%（107 件）と最も高く、「介護施設で、外国人介護職員のサポートをしたい」が 35.6%（47 件）、「介護の日本語を教えたい」が 23.5%（31 件）、「介護施設で、現場のリーダーになりたい」と「ケアマネジャーなどの介護に関連する他の仕事がしたい」が 11.4%（15 件）、「介護技術を教えたい」が 10.6%（14 件）、「介護以外の仕事がしたい」が 9.8%（13 件）、「介護施設以外の介護関係の会社に勤めたい」と「介護関係の会社や学校を作りたい」が 7.6%（10 件）、

「介護施設の施設長になりたい」が1.5%（2件）となっている。

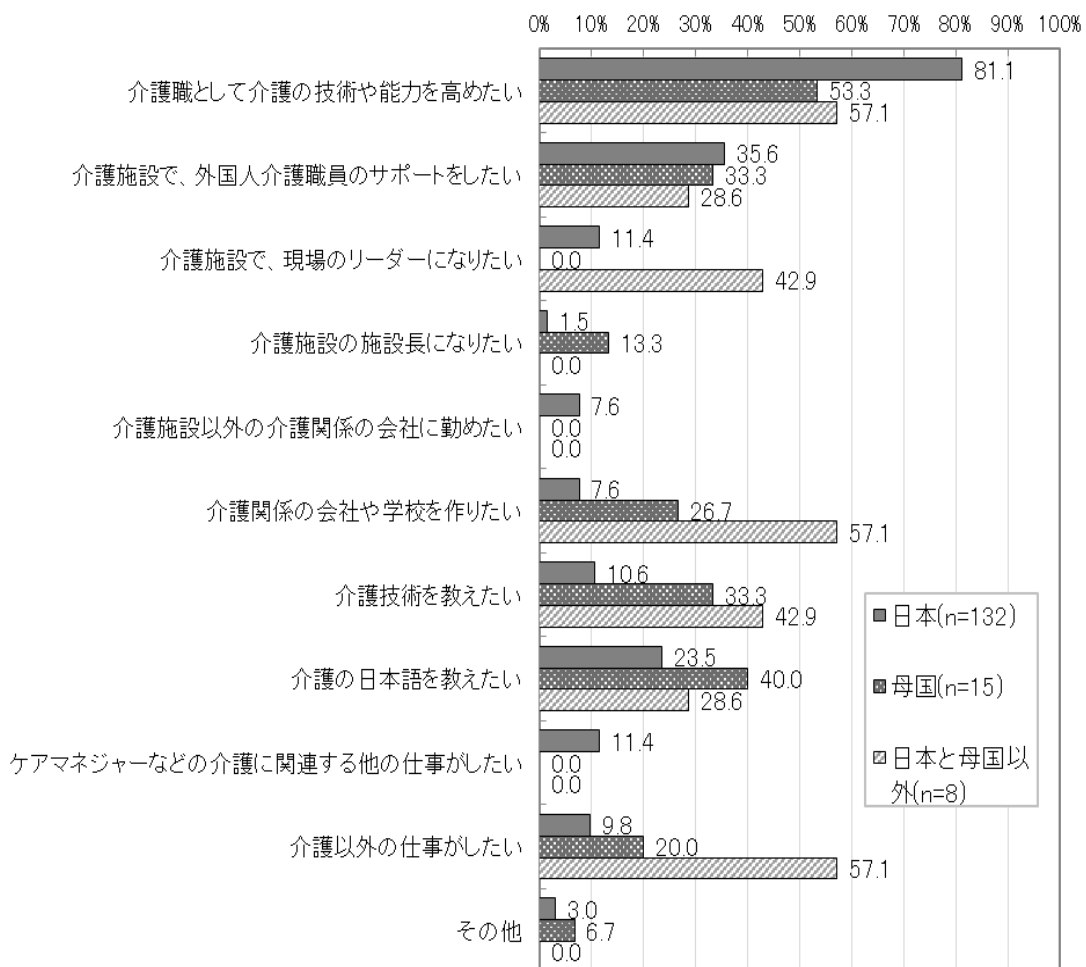
<母国>

全体では、「介護職として介護の技術や能力を高めたい」が53.3%（8件）と最も高く、「介護の日本語を教えたい」が40.0%（6件）、「介護施設で、外国人介護職員のサポートをしたい」、が33.3%（5件）、「介護関係の会社や学校を作りたい」が26.7%（4件）、「介護以外の仕事をしたい」が20.0%（3件）、「介護施設の施設長になりたい」が13.3%（2件）となっている。

<日本と母国以外>

全体では、「介護職として介護の技術や能力を高めたい」と「介護関係の会社や学校を作りたい」が57.1%（4件）と最も高く、「介護施設で、現場のリーダーになりたい」「介護技術を教えたい」「介護以外の仕事をしたい」が42.9%（3件）、「介護施設で、外国人介護職員のサポートをしたい」と「介護の日本語を教えたい」が28.6%（2件）となっている。

現在：したい仕事内容（複数選択）



問 21.1[B]. 将来：したい仕事内容（複数選択）【問 21[B]で「各選択肢」を回答した方】

<日本>

全体では、「介護職として介護の技術や能力を高めたい」が 51.1% (48 件) と最も高く、「介護施設で、外国人介護職員のサポートをしたい」が 33.0% (31 件)、「介護技術を教えたい」と「介護の日本語を教えたい」が 25.5% (24 件)、「介護施設で、現場のリーダーになりたい」が 20.2% (19 件)、「介護以外の仕事がしたい」が 16.0% (15 件)、「介護関係の会社や学校を作りたい」と「ケアマネジャーなどの介護に関連する他の仕事がしたい」が 12.8% (12 件)、「介護施設の施設長になりたい」と「介護施設以外の介護関係の会社に勤めたい」が 8.5% (8 件) となっている。

<母国>

全体では、「介護の日本語を教えたい」が 39.5% (17 件) と最も高く、「介護関係の会社や学校を作りたい」「介護技術を教えたい」「介護以外の仕事がしたい」が 30.2% (13 件)、「介護施設で、外国人介護職員のサポートをしたい」が 16.3% (7 件)、「介護職として介護の技術や能力を高めたい」が 14.0% (6 件)、「介護施設で、現場のリーダーになりたい」と「ケアマネジャーなどの介護に関連する他の仕事がしたい」が 7.0% (3 件)、「介護施設の施設長になりたい」と「介護施設以外の介護関係の会社に勤めたい」が 4.7% (2 件) となっている。

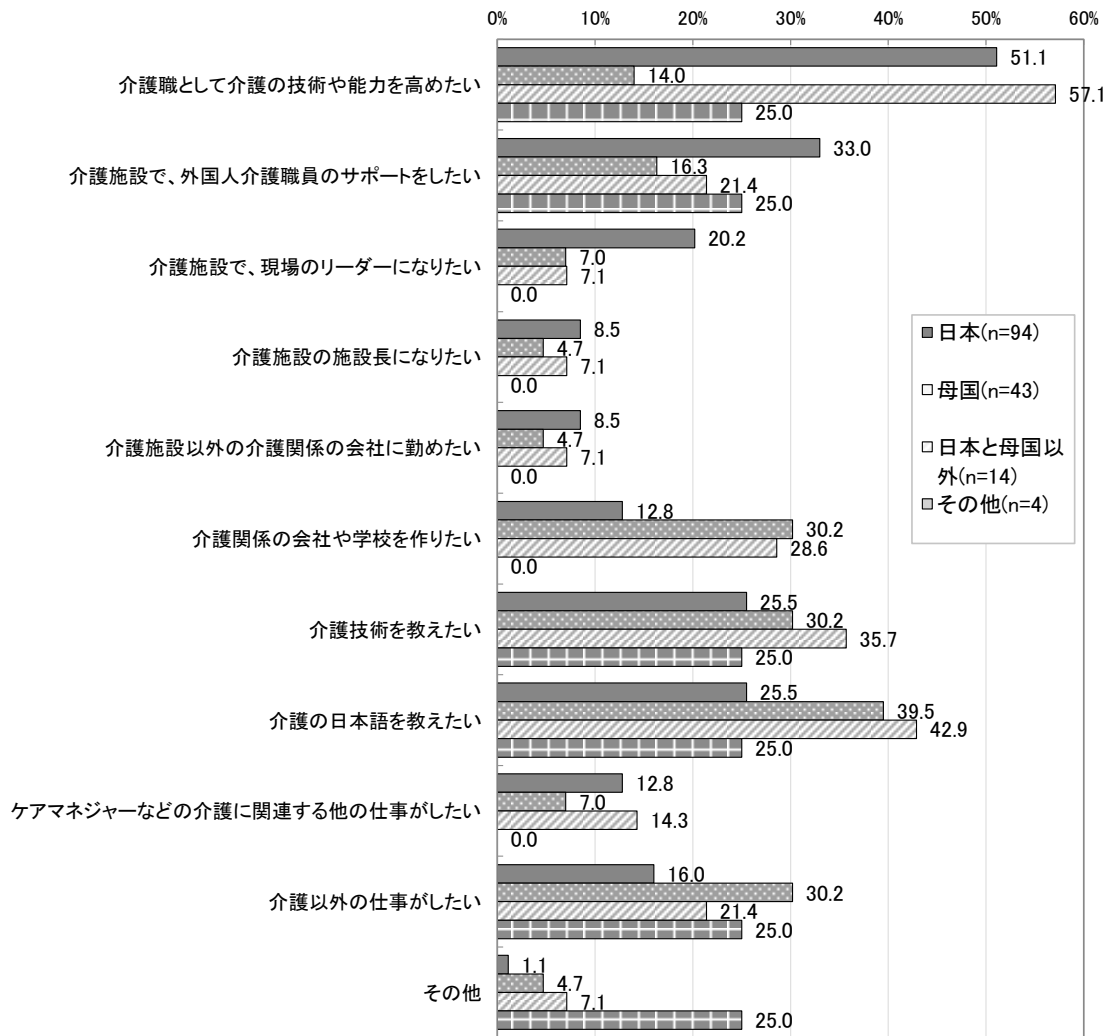
<日本と母国以外>

全体では、「介護職として介護の技術や能力を高めたい」が 57.1% (8 件) と最も高く、「介護の日本語を教えたい」が 42.9% (6 件)、「介護技術を教えたい」が 35.7% (5 件)、「介護関係の会社や学校を作りたい」が 28.6% (4 件)、「介護施設で、外国人介護職員のサポートをしたい」と「介護以外の仕事がしたい」が 21.4% (3 件)、「ケアマネジャーなどの介護に関連する他の仕事がしたい」が 14.3% (2 件)、「介護施設で、現場のリーダーになりたい」「介護施設の施設長になりたい」「介護施設以外の介護関係の会社に勤めたい」が 7.1% (1 件) となっている。

<その他>

全体では、「介護職として介護の技術や能力を高めたい」「介護施設で、外国人介護職員のサポートをしたい」「介護技術を教えたい」「介護の日本語を教えたい」「介護以外の仕事がしたい」がそれぞれ 25.0% (各 1 名) となっている。

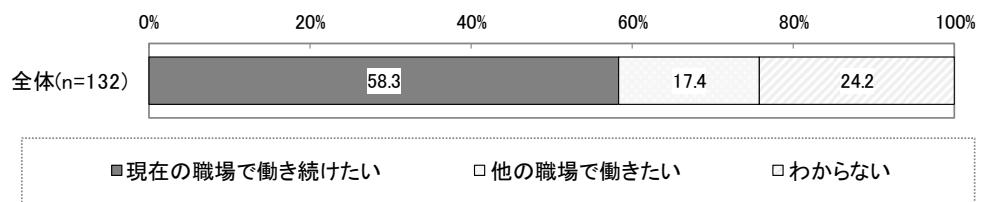
将来：したい仕事内容（複数選択）



問 21-1. 現在の職場での今後の意向 【問 21 [A] 現在もしくは問 21 [B] 将来で「1. 日本」と回答した方】

全体では、「現在の職場で働き続けたい」が 58.3% (77 件)、「他の職場で働きたい」が 17.4% (23 件)、「わからない」が 24.2% (32 件) となっている。

現在の職場での今後の意向 (n=132)



問 21-2. 問 21-1 現在の職場での今後の意向の理由

(主なご意見) ※文意を損なわない範囲で修正を加えている場合があります。

【現在の職場で働き続けたい】の理由

- ・ 人間関係が良く、遠慮無く何度も相談出来る仲間達がいる。施設長まで皆様優しく、何でも相談出来る。生活困った時にも助けてくれる。安全を感じます。信頼出来る。
- ・ 相談できる先輩や他の仲間との支えがあること。
- ・ 職員が優しくサポートしてくれます。
- ・ 職員さん優しい、リーダーも優しい。リーダーと施設長とも面会あるので困ったことがあれば相談することが出来ます。
- ・ 同僚は親切で親しみやすい。
- ・ 皆さんは優しく、何でも教えてくれました。いつも私たちの立場を考えてくれました。今は上司ではなく私のお父さんみたいです。
- ・ 職場の師長さん、先輩たちって親切や優しく環境が良いと思っている。
- ・ 働きやすい環境で、人間関係も良いからです。
- ・ 仕事内容が慣れているし、利用者様と仲良く、職員さんも皆親切だからです。
- ・ 現在の職場で働き続けたいのは今職場と利用者様のコミュニケーションをいろいろ取れなかったのもっと長く働いて経験とコミュニケーション、知識、意識を学びます。
- ・ 日本の介護の仕事は大変ですが、いつも側に優しい日本人の職員さんと利用者の方がいらっしゃるから働き続けたいです。
- ・ 日本で介護について、長い時間発展からたくさん勉強して、いつか帰国してから父母に介護させて頂きます。
- ・ 給料がちょっと安いと思いましたが、環境と仕事など慣れたし、奨学金ももらっていますから。
- ・ 引越ししたくないから。
- ・ 待遇のいい会社です。
- ・ 今の職場でスキルアップ出来るから。
- ・ 現在の職場で慣れているし、職員同士で差別なく接して下さるため。
- ・ 同じ役職の日本人職員と給与・勤務時間などが同じだから。
- ・ 勤務業務の調整ができるから。
- ・ 楽しい、日本文化を知っている為、住みやすい、きれいなど。
- ・ 業務内容と利用者様の支援方法を慣れました。
- ・ 永住ビザを取りたい。

【他の職場で働きたい】の理由

- ・ スタッフが不足で、疲れています。

- ・ 体がしんどいし今も辞めたい。
- ・ 職員を大切にしているのを感じられない現場で働きたくないです。
- ・ 収入を増やしたい。今の施設はダブルワークもできないし、最大可能収入も限られているのです。
- ・ 給料が少ないです。
- ・ お金を貯金できない。
- ・ 家族を養うために、自分ら(夫婦)の将来を考えて、最も収入を増やしたい。経済的に安定感が欲しい。そしてキャリアをアップと共に、一人でも多くの人々の力になりたい。
- ・ 他の施設をもっと経験したいです。色々な介護のやり方を知りたい。
- ・ 病状の異なる病院で試してみたい。
- ・ 色々な介助のサービスを勉強したいと思います。
- ・ 現在の職場は人間関係がいいけど給料が安い。他の職場に変わって経験や知識をもらいたいと思っています。
- ・ 仲間が仲良くない。上司も相談の信頼度が低かったです。

【わからない】の理由

- ・ 今一人暮らししているので生活するのが難しいです。給料は思っていたより少ないので生活して貯金することが全くできていません。
- ・ 身体の状態による。
- ・ 現在の会社と将来の事をまだ分からないが、今の感じた事は職員を大切にしている現場で働きつづけたくないです。
- ・ 相談したいことがある、同意してくれたら現在の職場で働き続ける。
- ・ 経験を積むため、色々な所で働いてみたいです。
- ・ 給料が少ない。仕事に慣れましたが給料がちょっと低いためまだ考える。

問 22. 日本の介護や職場について意見がありましたら、自由に記入してください。

(主なご意見) ※文意を損なわない範囲で修正を加えている場合があります。

【日本の介護について】

- ・ 介護仕事のやりがいがあると思うし利用者の身体の状態によって今まで学校で生かしたことを仕事に頑張りたい。
- ・ 色々な事情で、家で高齢者の世話ができない家族は多いことから、介護の職場はすごく役に立っていると思います。また、介護制度により心身的な問題があるにも関わらず生活ができるので、やっぱり日本は立派な国です。
- ・ 日本人の方は優しいだと思います。
- ・ 優しい人でなければ介護の仕事をとえ日本人でもやって欲しくない。
- ・ 日本の介護が必要な高齢者が多いです。

- ・ 介護サービスは色々な種類がある。
- ・ 大変です。心身も大変ですが、自分のメンタルの整えと技術を正しく活かさなければならぬ。
- ・ 介護の仕事は大変な仕事です。身体的に大変だし、精神的にやられます。大変さは当たり前が、こんなに大変な仕事なのに給料が安いと思います。

【職場環境について】

- ・ 今の環境はあまりいいものではなくぐちゃぐちゃです。障がい者施設にいきたいと思います。
- ・ 施設がすごく綺麗(ホテルみたい)だが、給料や手当などちょっと安いと思う。
- ・ もっと残業したい。2ヶ月前にこの職場に入っており、まだ仕事に慣れない。
- ・ しっかり挨拶をする。利用者さんと職員さんと笑顔でコミュニケーションをするわからないことを先輩職員さんと相談して仕事をする。
- ・ 意見を話しづらい。電話の対応は難しい。
- ・ アパートの家賃少しもらう良いと思います。
- ・ 専門用語が難しく記録や申し送りの時などに時間内に終わらない事があります。
- ・ 職場の管理やサービスなどはいいと思います。
- ・ フレンドリーな職場環境です。
- ・ 男性職員を募集して欲しい。
- ・ 勤続年数の長い女性職員が新入職員のことをいじめている。研修をしっかりと行われていない。
- ・ 日本人の職員がなまけもの。
- ・ 日本人は仕事中心ほとんどちゃんとしない。いつも人に任せる。全員じゃないけど私のところにいる。
- ・ 外国人に尊厳できれば、良い職場と思います。
- ・ 職場で帰国期間はちょっと緩くしてください。

【その他】

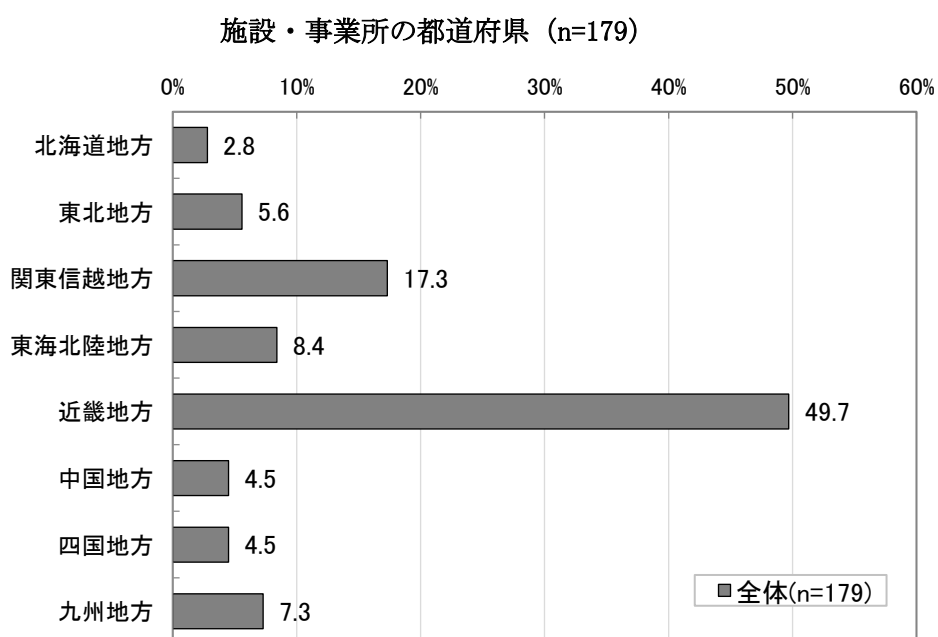
- ・ 自分の両親の事もうちょっと大切にしたいほうが良いと思う。両親が居なかったら僕はいなかったでしょうと考えて欲しいです。
- ・ 現在、日本で介護や職場がいろいろです。
- ・ 介護を学ぶ時に外国人向けの支援制度が意外に少なかったし、就職活動する時外国人だから断られた事があるのもっと外国人に優しくして欲しいです。
- ・ ベトナムより新人のトレーニングがいいと思う。

(2) 施設・事業所票

アンケートに協力いただいた179件のうち、在留資格「介護」の外国人介護職員が就労している43件のアンケート結果を主に掲載する。

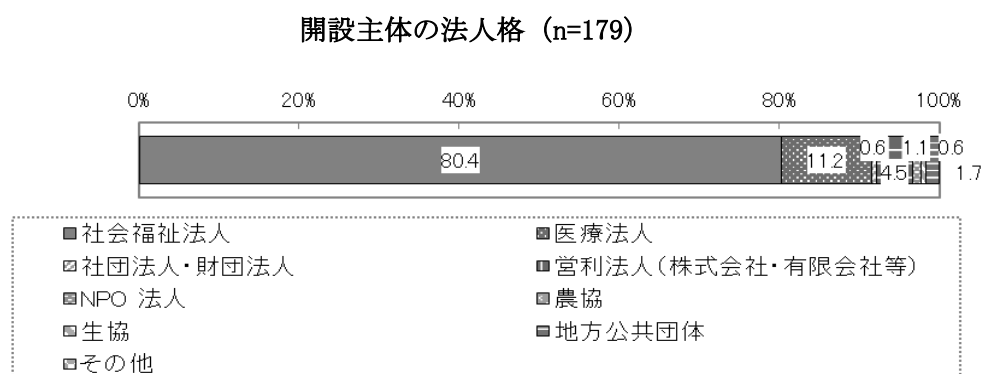
問1. 貴施設・事業所の都道府県

全体では、「近畿地方」が49.7% (89件) と最も高く、「関東信越地方」が17.3% (31件)、「東海北陸地方」が8.4% (15件)、「九州地方」が7.3% (13件)、「東北地方」が5.6% (10件)、「中国地方」と「四国地方」が4.5% (8件)、「北海道地方」が2.8% (5件) となっている。



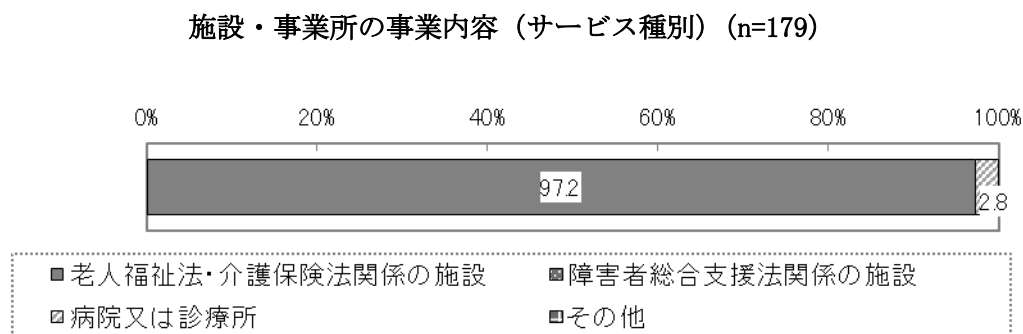
問 2. 貴施設・事業所の開設主体の法人

全体では、「社会福祉法人」が 80.4% (144 件) と最も高く、「医療法人」が 11.2% (20 件)、「営利法人 (株式会社・有限会社等)」が 4.5% (8 件)、「地方公共団体」が 1.7% (3 件)、「NPO 法人」が 1.1% (2 件)、「社団法人・財団法人」と「生協」が 0.6% (1 件) となっている。



問 3. 貴施設・事業所の事業内容 (サービス種別)

全体では、「老人福祉法・介護保険法関係の施設」が 97.2% (174 件)、「病院又は診療所」が 2.8% (5 件) となっている。

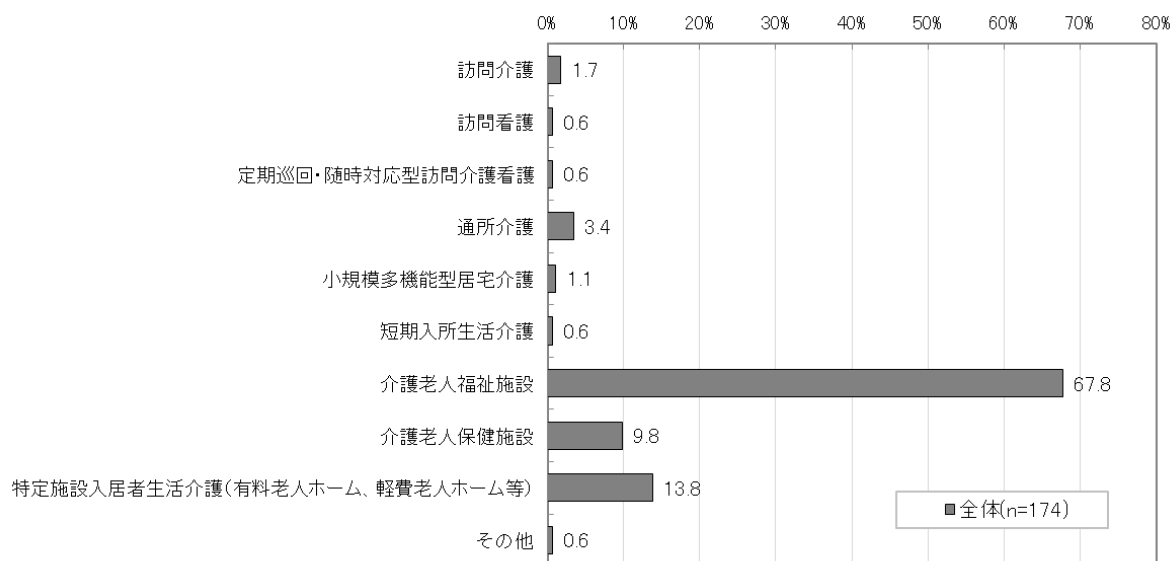


問 3-1. 貴施設・事業所の事業内容 (サービス種別) 【問 3 で「老人福祉法・介護保険法関係の施設」と回答した方】

問 3 で「老人福祉法・介護保険法関係の施設」と回答した 174 件のうち、「介護老人福祉施設」が 67.8% (118 件) と最も高く、「特定施設入居者生活介護 (有料老人ホーム、軽費老人ホーム等)」が 13.8% (24 件)、「介護老人保健施設」が 9.8% (17 件) となっ

いる。

施設・事業所の事業内容（サービス種別）（n=174）



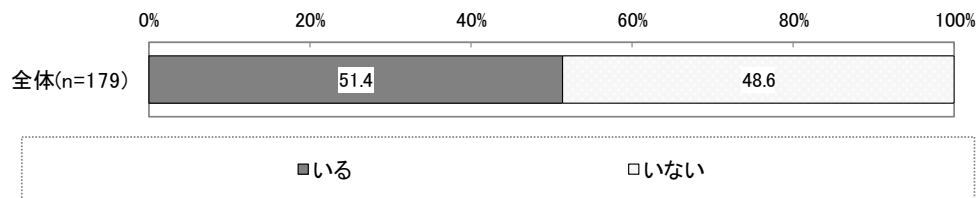
注) 「問 4. 貴施設・事業所における在留資格「介護」の方の就労の有無を教えてください。」と「問 5. 在留資格「介護」以外で、貴施設で就労する外国人介護職員の人数を教えてください。」は、以下の通り、在留資格「介護」を含めた外国人介護職員数の有無と人数を算出した。

問 4. 貴施設で就労する外国人介護職員の有無

全体では、「いる」が 51.4% (92 件)、「いない」が 48.6% (87 件) となっている。

「いる」と回答した 92 件のうち、在留資格「介護」が就労している施設・事業所は 44 件となっている。

施設で就労する外国人介護職員の有無（n=179）



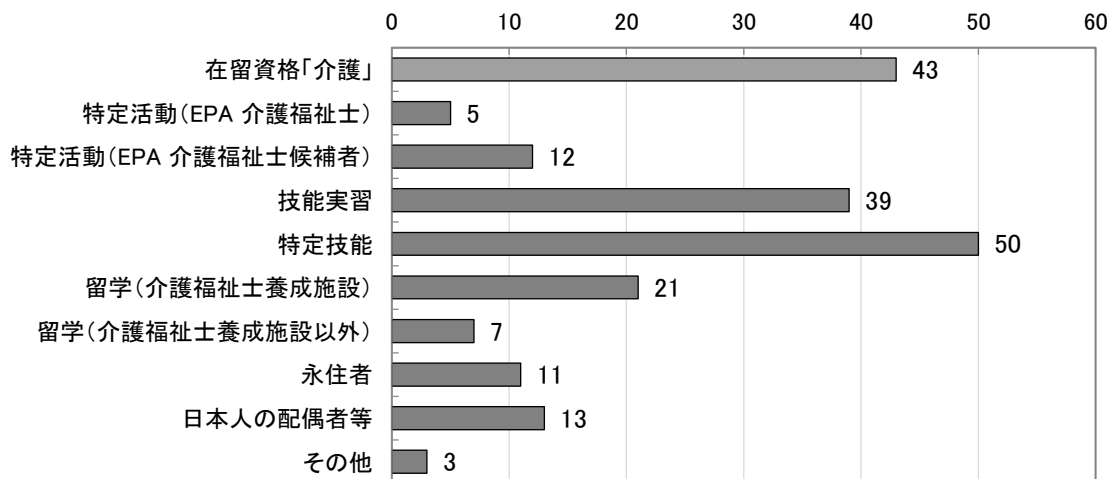
問 5. 施設で就労する外国人介護職員の在留資格（複数選択）

外国人介護が就労していると回答した 92 件では、全体で 204 名の外国人介護職員が就労している。在留資格の内訳は、「特定技能」が 50 人と最も高く、「在留資格「介護」

が43人、「技能実習」が39人と続いている。

「その他」は、「技術・人文知識・国際業務」の回答があった。1施設・事業所あたりの外国人介護職員数は、2.2人である。

施設で就労する外国人介護職員の在留資格（複数選択）／人数

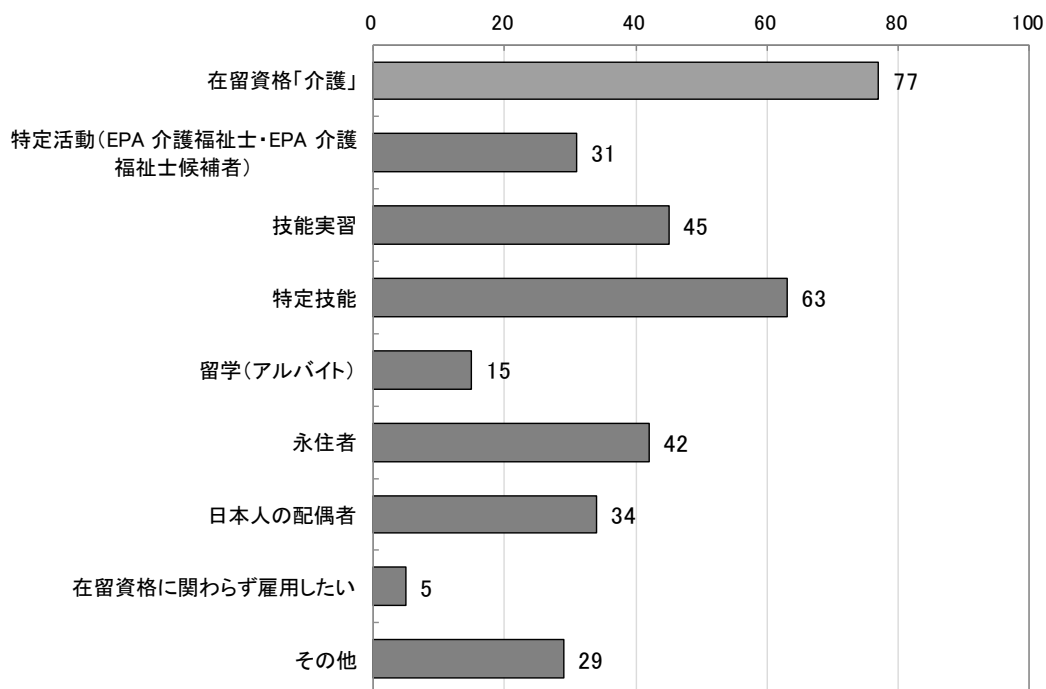


在留資格「介護」が就労している施設・事業所では、平均で2.7人が就労しており、最も多いところで10人が就労している。

問6. 今後も積極的に雇用したい外国人介護職員（3つまで選択）

回答のあった179件のうち、今後も積極的に雇用したい外国人介護職員で最も多かった在留資格は「在留資格「介護」」の77件である。続いて、「特定技能」が63件、「技能実習」が45件、「永住者」が42件、「日本人の配偶者」が34件、「特定活動（EPA 介護福祉士・EPA 介護福祉士候補者）」が31件、「留学（アルバイト）」が15件、「在留資格に関わらず雇用したい」が5件となっている。

問 6. 今後も積極的に雇用したい外国人介護職員（3つまで選択）／件数



問 6-1. 問 6 で選んだ理由

(主なご意見)

※文意を損なわない範囲で修正を加えている場合があります。

※複数回答のため、複数の在留資格を選択し回答しています。

【「在留資格「介護」」を選択した理由】

- ・ 介護の労働力として一定のレベル、安定、継続しての就労を望むため。
- ・ ある程度介護技術もしくは医療的知識を持っていたりするため。
- ・ 日本語が堪能である方が多く、日本語教育を省けると考えるため。
- ・ 雇用期限の制限がなく、他の在留資格に比べて報告や手続き上の煩雑さがない点。
- ・ 介護職員が不足しているため。外国人介護職員の能力が高いため。
- ・ 雇用がしやすく勤務の制限もない。
- ・ 日本人の常勤スタッフも足りない中、十分な教育もできないと感じています。比較的短期間で即戦力となり得る人材を要望しています。
- ・ 日本での生活に慣れている。生活面のサポートがほとんど必要ない。
- ・ 現在就労している技能実習生が今後、特定技能若しくは在留資格「介護」として働いてくれる事を期待して。
- ・ 介護技能、日本語能力を持った人材を確保したい。

- ・ できるだけ長期間にわたって常勤職員として働いていただきたいと考えているため。
- ・ 長く就労してくださる方が望ましいので。
- ・ 就学費用に奨学金(国、県の補助金あり)。学校と共に職員の育成が可能。介護福祉士資格有資格者の雇用となる。
- ・ 即戦力としてある程度の日本での介護経験者を採用することで人手不足感を早期に解消できる上に日本での生活のトラブルを回避できるため。
- ・ 施設での研修期間が短いため。
- ・ 資格取得という目標に向けて意欲、技術が高い。また、福祉(介護)の発展への貢献ができる。
- ・ 長期にわたる安定した雇用が期待できる。
- ・ 介護福祉士(有資格者)を確保したい。そのために介護福祉士専門学校に通学する留学生を雇用したい。但し介護福祉士に関する経過措置(令和8年度までに養成施設を卒業する学生が、社会福祉士及び介護福祉士法の一部を改正する法律(平成19年法律第125号)の附則第6条の3の適用を受ける場合)が延長されるかどうかで方針変更を検討する予定。
- ・ 過去に受け入れをしていた経緯があるため。

【「特定活動(EPA)」を選択した理由】

- ・ EPAは1年間の研修期間があり、就労してからも日本語や業務の飲み込みが早くて優秀な印象である。
- ・ ある程度介護技術もしくは医療的知識を持っていたりするため。
- ・ 日本語能力もある程度高く、日本人職員とのコミュニケーションも取りやすいため。
- ・ 現在、就労している外国人介護福祉士候補者は真面目に働いている。
- ・ 日本語レベルがある程度必要となるため。
- ・ 受け入れの経験があるため、スムーズに受け入れられると考えているため。

【「技能実習」を選択した理由】

- ・ 技能実習・・・やる気があり、覚えるのも早い。
- ・ 即戦力として期待が出来る。 ※「特定技能」も選択
- ・ 技能実習生は制度として途中退職が少ないため。
- ・ 現在当施設にいる技能実習生3名は、目的、目標をしっかり持っている。伝えること、教えることを通し既存の職員のレベルアップにも繋がることを期待する。
- ・ 実習生は「労働力」ではないことを職員が理解し手厚く指導している。そのおかげでコミュニケーションが取れており、特定技能に移行し職員となった後も双方問題なく働くことができている。仕事についても、3年間日本人職員の仕事を見ていることから色んなことができるため、日本人職員の負担を考えると、現時点

では技能実習→特定技能への移行が望ましい。

- ・ 技能実習生受入れ実績がある為。
- ・ 人員不足もあり、技能実習生として受入れ将来的に資格取得し長く働いてもらえればと考えて。
- ・ 中間業者の取扱いが多いから ※「特定技能」も選択
- ・ 信頼できる組合の協力が得られること。

【「特定技能」を選択した理由】

- ・ 就業期間が確保されている。
- ・ 来年度の雇用に向けて現在、手続き中であるため。
- ・ 人材確保を目的としていることから。
- ・ 日本人と同条件で雇用出来て、指導は必要となるものの、技能実習生より手間がかからない事と、コスト的にも技能実習生より安い。
- ・ 特定技能の方については、ある程度、日本での生活や文化を理解されていることに加え、日常会話をはじめ、日本語スキルもある程度習得されていることで、スムーズに業務の伝達や職場内でのコミュニケーションを図ることが出来るため
- ・ 介護福祉士の資格取得を見据え、長期的な就労が期待できるから。
- ・ 介護業務は勿論介護技術が重要ですが、日本語をよく理解できないと介護にとって重要な意思の疎通ができません。「特定技能」は比較的日本語ができると考えるからです。 ※他、「永住者」「日本人の配偶者」も選択
- ・ ある程度の日本語能力があること、介護の勉強をしてきていることもあり、割とスムーズに業務につくことができているため。
- ・ 長く勤めてもらいたい。
- ・ 中間業者の取扱いが多いから。 ※「技能実習」も選択
- ・ 特定技能に関しては介護職経験者、または母国で看護系を学んだことがある人材であれば雇用したい。

【「留学（アルバイト）」を選択した理由】

- ・ 雇用して働いてもらうより、日本の文化を学んで頂きたい思いの方があから。
- ・ 近隣に日本語学校があり、勤務時間制限のある留学生の受入をしている。

【「永住者」、「日本人の配偶者」を選択した理由】

- ・ 在留期間を気にしなくてよいし、日本に長くいる人が多い分、日本語が堪能であることが多いから。
- ・ 安定して長期間働き続けてくれる方を採用したいから。
- ・ 長期にわたる就労が期待できるため。
- ・ 資格等取得後、帰国する事例を見聞きするから。
- ・ 手続きが煩雑に思うため。

- ・ 日本語がある程度理解できており、コミュニケーションがスムーズに取れるから。
- ・ 語学力及び日本の風習等について一定程度の習熟及び理解があると見込まれるため。
- ・ 介護業務は勿論介護技術が重要ですが、日本語をよく理解できないと介護にとって重要な意思の疎通ができません。「永住者」「日本人の配偶者等」は比較的日本語ができると考えるからです。 ※他、「特定技能」も選択
- ・ 永住者、日本人の配偶者は、日本での生活に慣れているということと、何か分からないことがあってもご家族に話をすることで解決することが多い。

【「在留資格に関わらず雇用したい」を選択した理由】

- ・ 資格を持っていなくても、雇用しながら資格を取ってもらい育成していきたい。
- ・ 日本人スタッフだけでは人材確保できないから。
- ・ 介護人材が不足している中、介護職を志す人材は在留資格に関わらず共に働きたいと思います。

【「その他」を選択した理由】

- ・ 特に雇用を考えていない。
- ・ 現在特段必要性を感じない。
- ・ 施設的环境上、1フロアを1人の職員で対応する状況が多いため、難しい。
- ・ 田舎であり 通勤に車が必要、住居見必要であり、今のところ外国人介護職員については、保留。
- ・ 介護職員が充足しており、外国人介護職員を採用する計画はない。
- ・ 今のところ、日本人の採用で充足している。
- ・ まだまだ、日本には差別があり外国人が日本で働くのは難しいと思います。せっかく日本に来て真面目に働きたいと思っている外国人の気持ちを壊してしまう可能性が高いと思われます。その為には給料などや外国人がストレスをためない環境整備を整える必要があると思います。日本に夢を見て来た外国人がフタを開けると自国の方がましと思うような事がまだまだ有ると思います。しかし日本に来て介護の仕事をする、大変な事は沢山あると思います、自国へ帰った時に日本で勉強できて良かったと思えるような環境整備をして頂きたいです。
- ・ 技能実習生を受け入れたが、経費もかかるし現場の職員の負担も大きい。しかし、いい人材であれば外国人でも日本人と差別することなく雇用したいと思う。
- ・ 文化や宗教の違いが懸念されるため、現時点では外国人の採用は考えていない。

問7. 貴施設・事業所の職員の人数（令和4年10月1日時点）

全体では、「平均」が75.9人、「中央値」が70.0人、「最小値」が5.0人、「最大値」が190.0人であった。

そのうちの介護職員では、「平均」が 42.4 人、「中央値」が 43.5 人、「最小値」が 5.0 人、「最大値」が 90.0 人であった。

そのうちの介護福祉士では、「平均」が 27.0 人、「中央値」が 26.5 人、「最小値」が 4.0 人、「最大値」が 49.0 人であった。

施設・事業所の職員の人数（令和 4 年 10 月 1 日時点）（人）

	全体	平均	中央値	最小値	最大値
全職員数	43 100	75.9	70.0	5.0	190.0
そのうちの介護職員	42 100	42.4	43.5	5.0	90.0
そのうちの介護福祉士	42 100	27.0	26.5	4.0	49.0

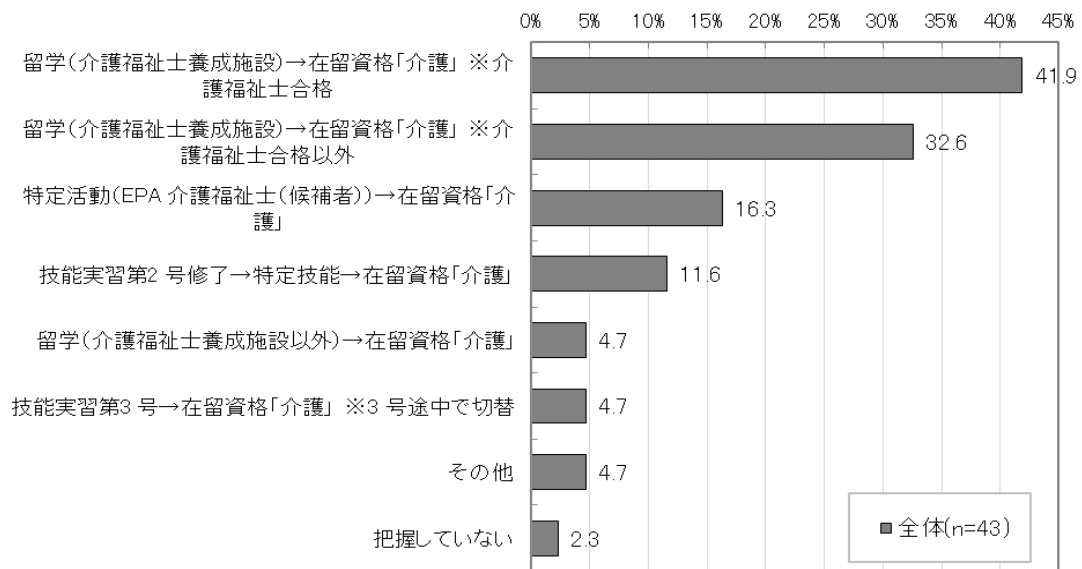
問 8.1. 在留資格「介護」に至るまでのルート別人数（複数選択）

全体では、「留学（養成施設）→在留資格「介護」 ※介護福祉士合格」が 41.9%（18 人）と最も高く、「留学（養成施設）→在留資格「介護」 ※介護福祉士合格以外」が 32.6%（14 人）、「特定活動（EPA 介護福祉士（候補者））→在留資格「介護」」が 16.3%（7 人）、「技能実習第 2 号修了→特定技能→在留資格「介護」」が 11.6%（5 人）、「留学（養成施設以外）→在留資格「介護」」、「技能実習第 3 号→在留資格「介護」 ※3 号途中で切替」が 4.7%（2 人）となっている。

「留学（養成施設）→在留資格「介護」 ※介護福祉士合格以外」には、不合格者と未受験者が含まれる。

「その他」には、「紹介のため不明」と「EPA 不合格→帰国→技能実習→在留資格「介護」 ※2 号途中で切替」が含まれる。

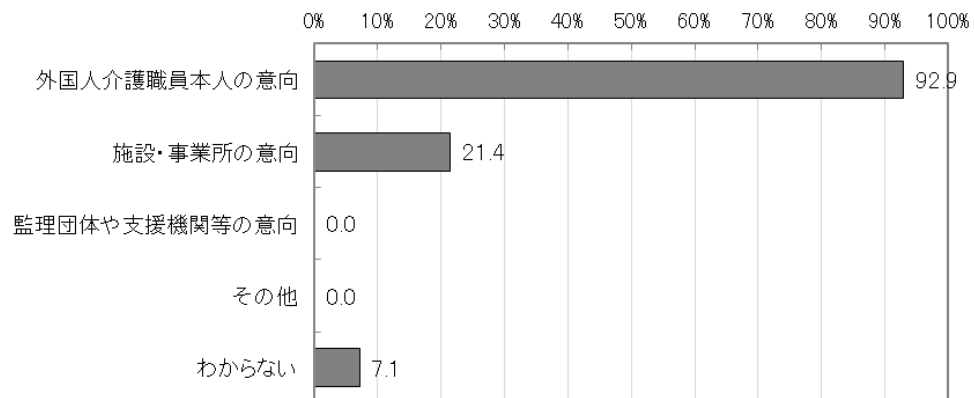
在留資格「介護」に至るまでのルート別人数（複数選択）（n=43）



問 8-1. 他の在留資格から在留資格「介護」に切り替えた経緯（複数選択）【問 8.1 で「留学→在留資格「介護」」と回答した者以外】

全体では、「外国人介護職員本人の意向」が 92.9%（13 件）と最も高く、「施設・事業所の意向」が 21.4%（3 件）となっている。また「わからない」が 7.1%（1 件）となっている。

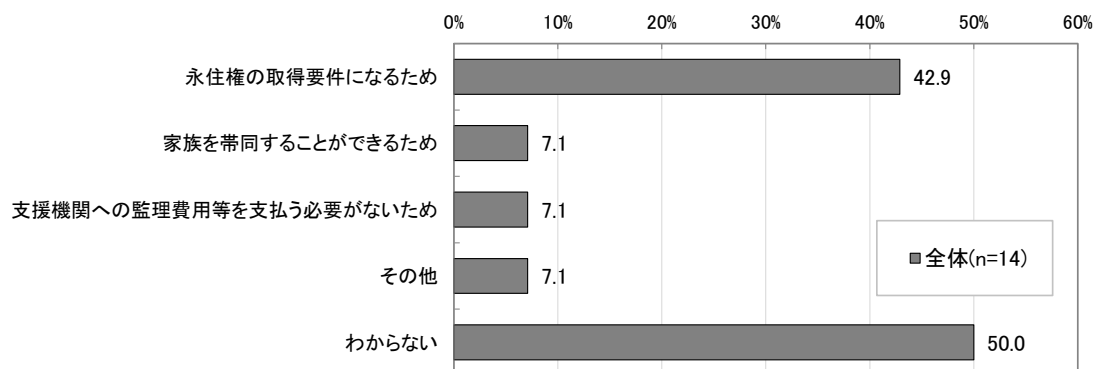
他の在留資格から在留資格「介護」に切り替えた経緯（複数選択）（n=14）



問 8-2. 他の在留資格から在留資格「介護」に切り替えた理由（複数選択）【問 8.1 で「留学→在留資格「介護」と回答した者以外】

全体では、「永住権の取得要件になるため」が 42.9%（6 件）と最も高く、「家族を帯同することができるため」が 7.1%（1 件）、「支援機関への監理費用等を支払う必要がないため」が 7.1%（1 件）となっている。また「わからない」が 50.0%（7 件）となっている。「その他」の回答にも「他事業所から転職してきたので切り替える前提であった」とあるように、外国人介護職員が転職した場合は、施設側は理由を把握していないことが多いと考えられる。

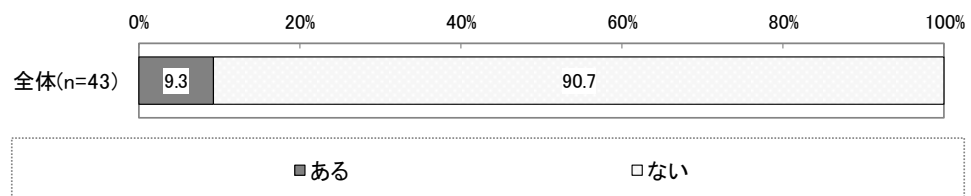
他の在留資格から在留資格「介護」に切り替えた理由（複数選択）（n=14）



問 9. 在留資格「介護」で就労する方と日本人職員の業務内容の違い

全体では、「ある」が 9.3%（4 件）、「ない」が 90.7%（39 件）となっている。「ある」と回答した中には、「ご家族との苦情等の電話対応は極力控えている」「コミュニケーション技術に差を感じる」があがっている。

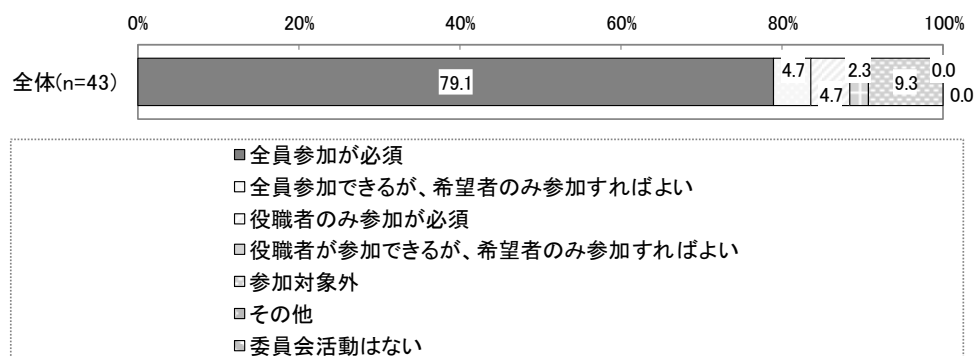
在留資格「介護」で就労する方と日本人職員の業務内容の違い（n=43）



問 10. 在留資格「介護」で就労する方の施設内の委員会活動への参加基準

全体では、「全員参加が必須」が 79.1% (34 件) と最も高く、「参加対象外」が 9.3% (4 件)、「全員参加できるが、希望者のみ参加すればよい」が 4.7% (2 件)、「役職者のみ参加が必須」が 4.7% (2 件)、「役職者が参加できるが、希望者のみ参加すればよい」が 2.3% (1 件) となっている。

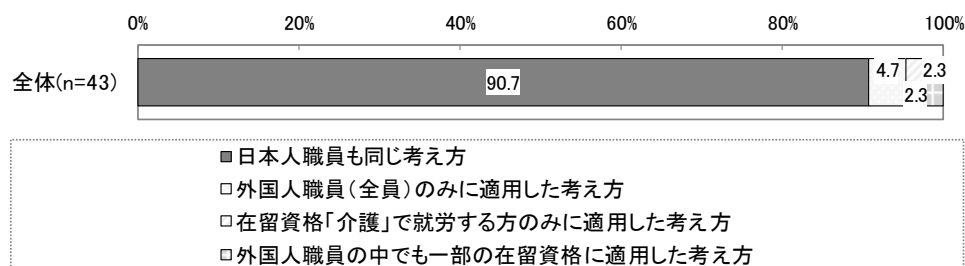
在留資格「介護」で就労する方の施設内の委員会活動への参加基準 (n=43)



問 10-1. 日本人職員と外国人介護職員との委員会活動の参加基準の違い

全体では、「日本人職員も同じ考え方」が 90.7% (39 件) と最も高く、「外国人介護職員 (全員) のみに適用した考え方」が 4.7% (2 件)、「在留資格「介護」で就労する方のみに適用した考え方」が 2.3% (1 件)、「外国人介護職員の中でも一部の在留資格に適用した考え方」が 2.3% (1 件) となっている。

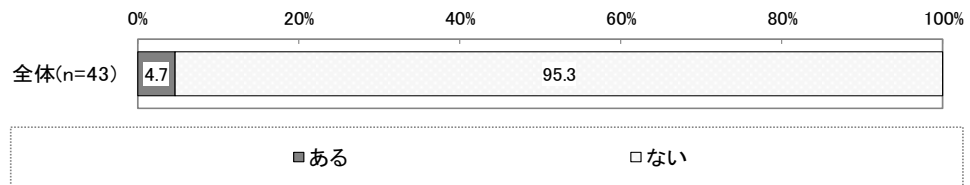
日本人職員と外国人介護職員との委員会活動の参加基準の違い (n=43)



問 11. 在留資格「介護」で就労する方と日本人職員との処遇（給与や福利厚生、勤務時間、評価基準等）の違い

全体では、「ない」が 95.3%（41 件）、「ある」が 4.7%（2 件）となっている。

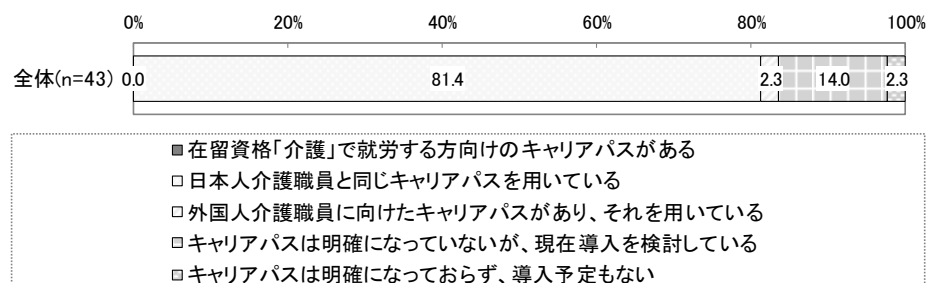
在留資格「介護」で就労する方と日本人職員との処遇の違い（n=43）



問 12. 在留資格「介護」で就労する方のキャリアパス

全体では、「日本人職員と同じキャリアパスを用いている」が 81.4%（35 件）と最も高く、「キャリアパスは明確になっていないが、現在導入を検討している」が 14.0%（6 件）、「外国人介護職員に向けたキャリアパスがあり、それを用いている」が 2.3%（1 件）、「キャリアパスは明確になっておらず、導入予定もない」が 2.3%（1 件）となっている。

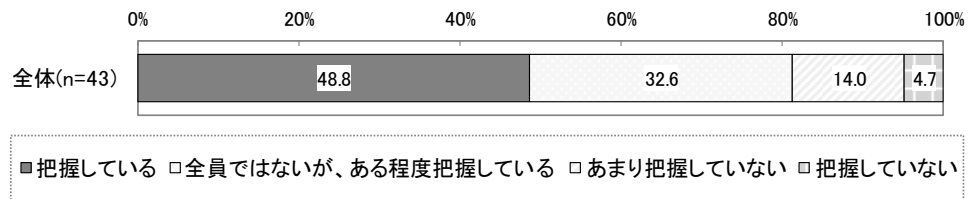
在留資格「介護」で就労する方のキャリアパス（n=43）



問 13. 在留資格「介護」で就労する方の在留の意向や将来の目標の把握

全体では、「把握している」が 48.8%（21 件）と最も高く、「全員ではないが、ある程度把握している」が 32.6%（14 件）、「あまり把握していない」が 14.0%（6 件）、「把握していない」が 4.7%（2 件）となっている。

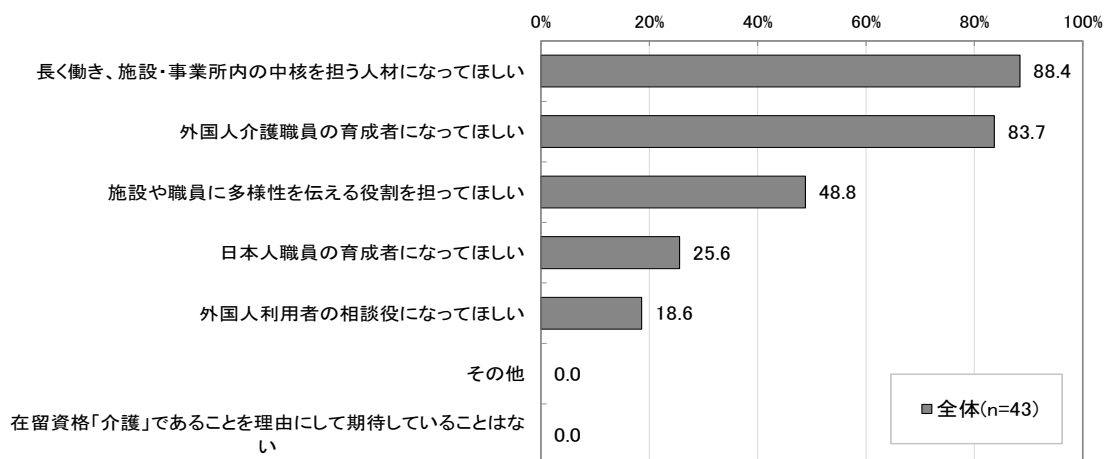
在留資格「介護」で就労する方の在留の意向や将来の目標の把握 (n=43)



問 14. 在留資格「介護」で就労する方について期待していること (複数選択)

全体では、「長く働き、施設・事業所内の中核を担う人材になってほしい」が 88.4% (38 件) と最も高く、「外国人介護職員の育成者になってほしい」が 83.7% (36 件)、「施設や職員に多様性を伝える役割を担ってほしい」が 48.8% (21 件)、「日本人職員の育成者になってほしい」が 25.6% (11 件)、「外国人利用者の相談役になってほしい」が 18.6% (8 件) となっている。

在留資格「介護」で就労する方について期待していること (複数選択) (n=43)



問 15. 在留資格「介護」で就労する方の活躍事例

【A さん (フィリピン)】

日本語能力も高く、また、英語も堪能ということから、新しく特定技能として入職された外国人の方に対しても、日本人が伝えきれない細かな部分でのアドバイスや同じ外国人であるということから不安の解消にもつながっている。

【B さん (フィリピン)】

施設の季刊誌を作成する際にレイアウトや写真配置等、行ってくれた。パソコンの操

作なども日本人に教えてくれています。

【Cさん（ベトナム）】

ベトナム人就労者において一番日本語での受け答えが有能なので、他のベトナム人との間に入って情報交換等の担い手になってくれており、ユニットリーダーの補佐的存在として頑張ってくれている。

【Dさん（ネパール）】

介護現場での実践年数が違うため、それぞれが今の仕事に向き合っている段階。在籍が一番長いDさんについては、ユニット内で職員間のバランスを取りながらケアに向き合っており、入居者からのある意味信頼もある。次年度以降役割を担って頂くことを想定している。

【Eさん（国籍未記入）】

日々の業務の中で責任介護職員として職員の取りまとめを行っている。

【Fさん（インドネシア）】

在留資格「介護」は1名のみ。当法人は外国人介護職員の国籍をインドネシアのみにしており、当人が特定技能の職員たちのよい手本・相談相手になっている。日本人職員と遜色なく就労しており、外国人だからとか関係なく活躍して欲しいと期待している。

【Gさん（ベトナム）】

ベトナム人就労者、実習生、留学生の通訳兼指導伝達係をしています。

【Hさん（ベトナム）】

養成施設を卒業し、今年4月より入職。日本人の職員と同じ業務を同じペースでこなし頑張っている。

【Iさん（国籍未記入）】

施設からデイサービスと多岐に亘り活躍している。

【Jさん（インドネシア）】

役職：主任、スタッフの取りまとめ、勤務表作成などリーダー業務を行っています。

【Kさん（中国）】

リーダーとしてその日の業務の割り振りやスタッフの取りまとめ、多職種間で円滑な情報共有を図ることができるよう情報伝達の役割を担っている。

【Lさん（ベトナム）】

常勤の介護職員として、日本人スタッフと同等の業務をおこなっており、キャリアパスにおける職位も中堅クラスです。近年増えて来た外国籍スタッフの先輩として、育成や相談の面で活躍してくれています。

【Mさん（インドネシア）】

現在、管理職者として、介護現場の主任を行ってもらっている。また、介護支援専門員の資格も取得し、ケアマネジャーとしても活躍している。

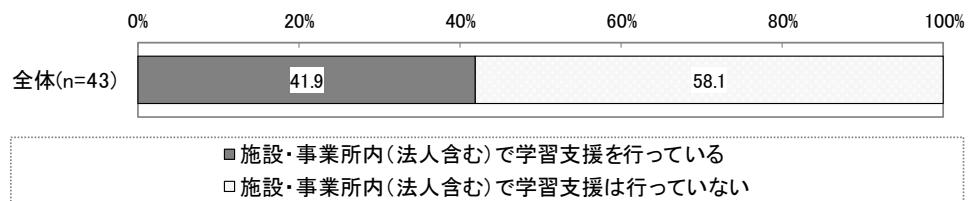
【Nさん（ベトナム）】

昨年介護福祉士取得している。日本人職員と遜色なく勤務している。現在、外国人介護職員は1名であるが今後増員した場合にリーダー的役割を担っていただきたいと思っております。

問 16. 外国人介護職員の介護福祉士取得に向けた学習支援の有無

全体では、「施設・事業所内（法人含む）で学習支援は行っていない」が 58.1%（25 件）、「施設・事業所内（法人含む）で学習支援を行っている」が 41.9%（18 件）となっている。

外国人介護職員の介護福祉士取得に向けた学習支援の有無（n=43）

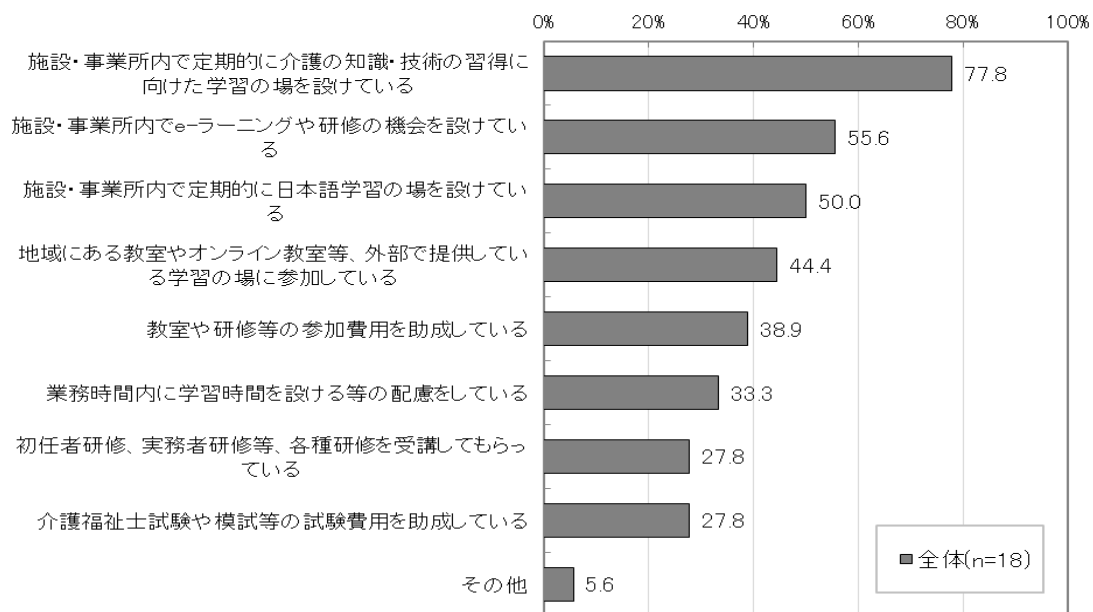


問 16-1. 貴施設・事業所で行っている学習支援（複数選択）【問 16 で「1. 施設・事業所内（法人含む）で学習支援を行っている」と回答した方】

全体では、「施設・事業所内で定期的に介護の知識・技術の習得に向けた学習の場を設けている」が 77.8%（14 件）と最も高く、「施設・事業所内で e-ラーニングや研修の機会を設けている」が 55.6%（10 件）、「施設・事業所内で定期的に日本語学習の場を設けている」が 50.0%（9 件）、「地域にある教室やオンライン教室等、外部で提供している学習の場に参加している」が 44.4%（8 件）、「教室や研修等の参加費用を助成している」

が 38.9%（7 件）と続いている。

施設・事業所で行っている学習支援（複数選択）（n=18）



問 16-2-1. 外国人介護職員、在留資格「介護」の方に対して、貴施設・事業所内（法人も含む）で行っている学習面以外の支援（それぞれ複数選択）

※JICWELS、監理団体、養成施設等の支援は除き、施設・事業所内で行っている支援のみ回答

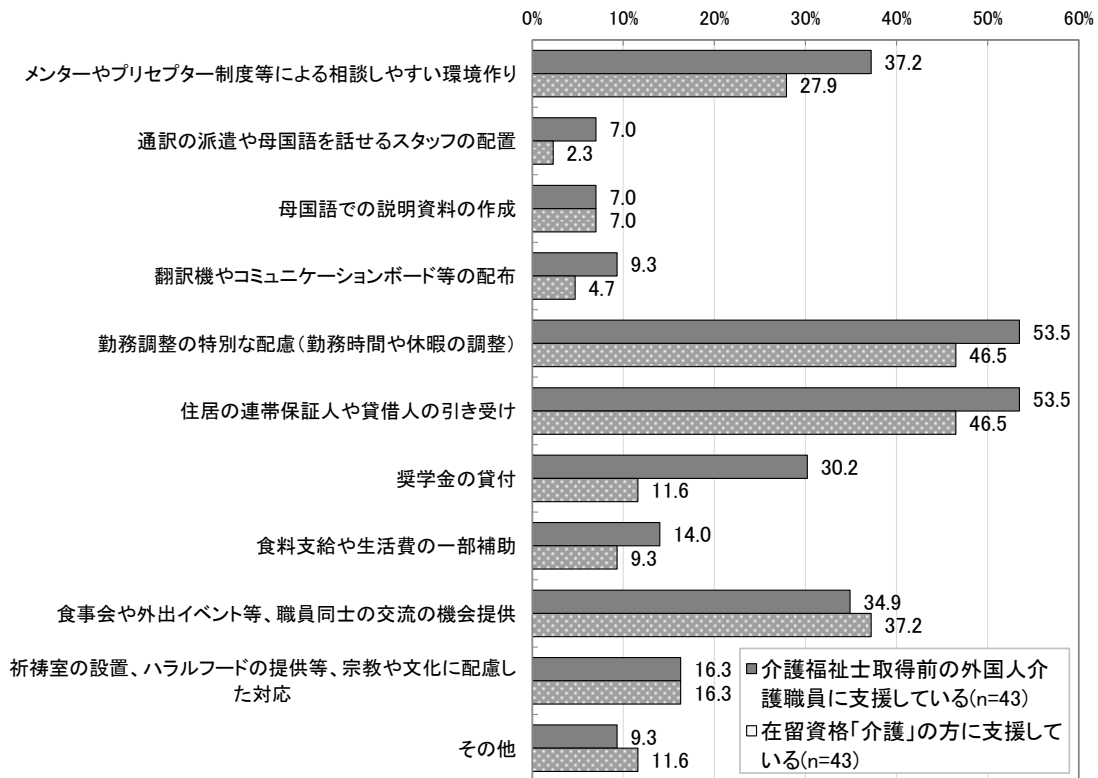
<介護福祉士取得前の外国人介護職員への支援>

全体では、「勤務調整の特別な配慮（勤務時間や休暇の調整）」が 53.5%（23 件）と「住居の連帯保証人や貸借人の引き受け」が 53.5%（23 件）と最も高く、「メンターやプリセプター制度等による相談しやすい環境作り」が 37.2%（16 件）、「食事会や外出イベント等、職員同士の交流の機会提供」が 34.9%（15 件）、「奨学金の貸付」が 30.2%（13 件）と続いている。

<在留資格「介護」の方への支援>

全体では、「勤務調整の特別な配慮（勤務時間や休暇の調整）」と「住居の連帯保証人や貸借人の引き受け」が 46.5%（20 件）と最も高く、「食事会や外出イベント等、職員同士の交流の機会提供」が 37.2%（16 件）、「メンターやプリセプター制度等による相談しやすい環境作り」が 27.9%（12 件）、「祈祷室の設置、ハラルフードの提供等、宗教や文化に配慮した対応」が 16.3%（7 件）、「奨学金の貸付」が 11.6%（5 件）と続いている。

介護福祉士取得前の外国人介護職員に対して施設・事業所内（法人も含む）で行っている
学習面以外の支援（複数選択）（n=43）



問 17-1. 特に力を入れた支援内容

（主なご意見） ※文意を損なわない範囲で修正を加えている場合があります。

- ・ 細かい部分での介助方法などを極力平易な言葉に置き換えて、本人が理解できるように努めた。
- ・ 方言を標準語に直し、入居者の言葉が理解できるように努めた。
- ・ 方言や敬語の勉強会を行なった。
- ・ 本人が不安にならないように、一定期間はほぼ毎日、反省会を行い、困ったことやわからなかったこと、介助についてなど幅広く話す場を設けた。
- ・ 上司が、一人で現場を任せられると判断するまでは、本人にサポート役を付け、常に見守ることができる状態で介護現場には入ってもらった。
- ・ 私的な部分での困りごとについて、施設や職員がそれぞれのレベルでの支援を行った。
- ・ 寮においては住みやすい環境づくり、アパート探しにおいても生活し易い部屋探しを心掛け、電化製品、食器等の生活必需品はすべてこちらで手配し、揃えてあげている。
- ・ 奨学金制度。

- ・ 最初引っ越してくる際の家探しや買い物等は特に気を遣った。
- ・ 家族滞在を希望される方、出産・育児について、関係機関と調整を行った。
- ・ 住宅に関しては外国人だけだと断られるケースもあったので、一緒に家探しをしている。その際の引越しも手伝っている。
- ・ 職場に早く馴染めるよう積極的に話しかけたり、住居の選定や必要生活用品の生活支援を積極的に行った。
- ・ 介護技術・コミュニケーション技術・書類の作成方法。
- ・ 仕事内容だけでなく、私生活の事でも相談できるような協力体制を作った。
- ・ 徒歩通勤可能な社宅を購入し、市場家賃相場の半額以下で貸与している。
- ・ 介護福祉士国家試験前の合同学習への参加（法人内にて集合し勉強を実施）
- ・ 日本語学校通学中、生活基盤が整うまでのサポートの実施、寮の完備。
- ・ 宗教文化の配慮から食器・調理器具などは別々に購入して備品としている。また祈りの時間は休憩時間を2回に分けている。

問 17-2. これから行いたい支援内容

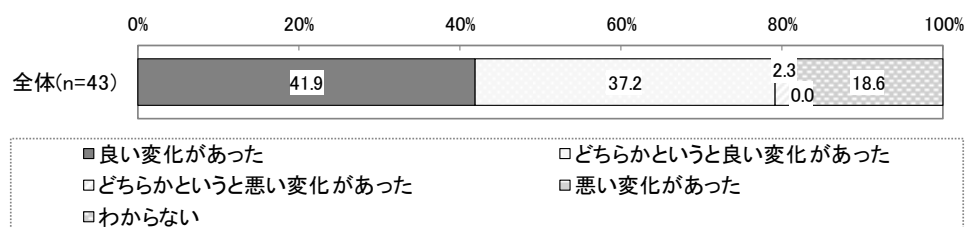
- (主なご意見) ※文意を損なわない範囲で修正を加えている場合があります。
- ・ 介護福祉士の資格を取得したいと強い希望があるので、介護福祉士の資格取得に向けた、学習などの支援を行っていきたいと考えています。
 - ・ 病院受診などがあれば監理団体と協力して支援したい。
 - ・ 継続していききたいこととしては、公私ともに困っていることがあれば積極的に支援していく。
 - ・ 言葉の壁は大きいことから、少しでも本人の能力が高められるようなアプローチができればと考える。
 - ・ 介護技術向上のための勉強方法について、本人への情報提供を行っていきたい。
 - ・ 受け入れ時に文化の違いで戸惑う機会があるので、お互いの交流会などを企画しある程度相互理解を培ってから業務指導などにつなげたい。
 - ・ 外国人介護職員はお金を稼ぐということにシビアな面が否めないなので、書類関係のことは（年末調整や扶養控除等）確立しておきたい。在留資格「介護」の職員については、下手に日本人と差をつけることなく接していくようにしている。
 - ・ 日本で、安心して長く生活ができるように、その都度、課題に対して一緒に取り組みたい。
 - ・ 日本語の学習支援。
 - ・ 引き続き、総合的に支援をおこなっていく。

問 18. 在留資格「介護」の方が就労していることによる変化

全体では、「良い変化があった」が 41.9% (18 件) と最も高く、「どちらかというの良い変化があった」が 37.2% (16 件)、「どちらかというの悪い変化があった」が 2.3% (1 件)、「悪い変化があった」が 0.0% (0 件)、「わからない」が 18.6% (8 件) となっている。

「どちらかというの悪い変化があった」と回答した施設・事業所 (1 件) については、「当初は日本人職員にとってはいい緊張感があったが、慣れてきたことで、日本人職員の業務態度等に緊張感がなくなり、その様子を見た外国籍職員の不満が出てきた」と回答している。このことから、在留資格「介護」の方が就労していることによる直接の悪影響ではないことがわかる。

在留資格「介護」の方が就労していることによる変化 (n=43)

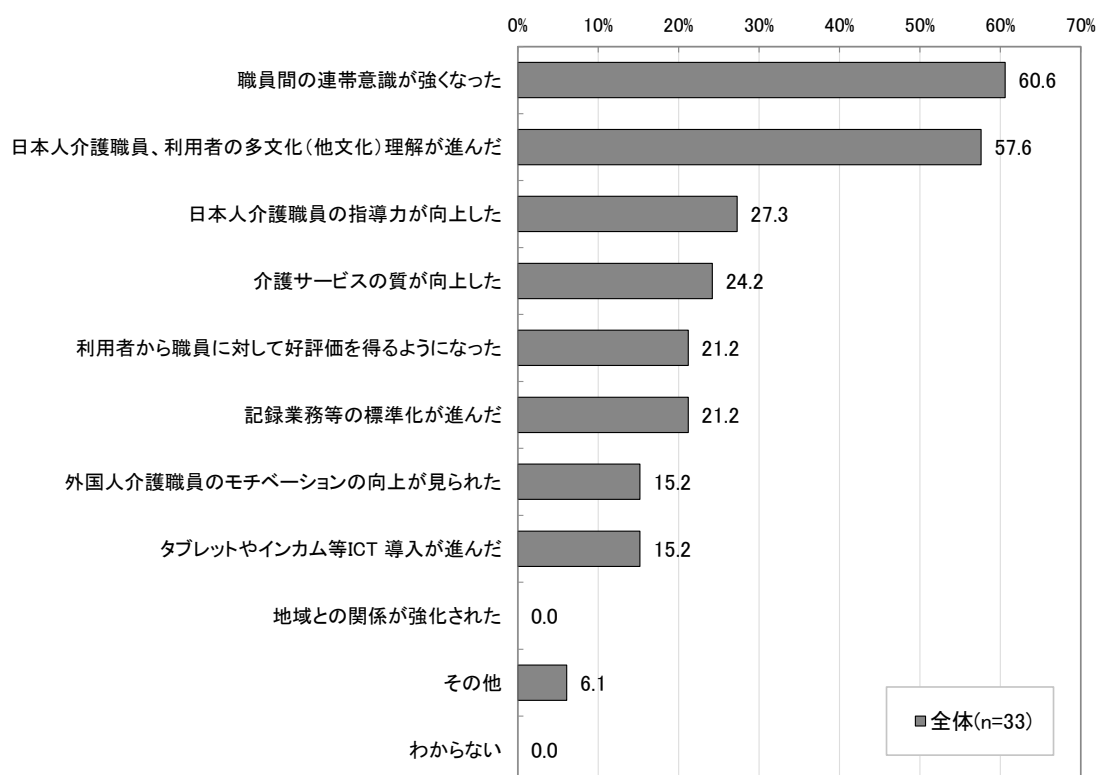


問 18-1. 変化の内容 (複数選択) 【問 18 で「1. 良い変化があった」、「2. どちらかというの良い変化があった」と回答した方】

全体では、「職員間の連帯意識が強くなった」が 60.6% (20 件) と最も高く、「日本人職員、利用者の多文化 (他文化) 理解が進んだ」が 57.6% (19 件)、「日本人職員の指導力が向上した」が 27.3% (9 件)、「介護サービスの質が向上した」が 24.2% (8 件)、「利用者から職員に対して好評価を得るようになった」と「記録業務等の標準化が進んだ」が 21.2% (7 件)、「外国人介護職員のモチベーションの向上が見られた」と「タブレットやインカム等 ICT 導入が進んだ」が 15.2% (5 件) となっている。

「その他」には、「一生懸命さ、素直さ等に触れ、他職員たちに刺激を与えている」や「モチベーションが高く真面目であり、他の職員の刺激になっている」があった。

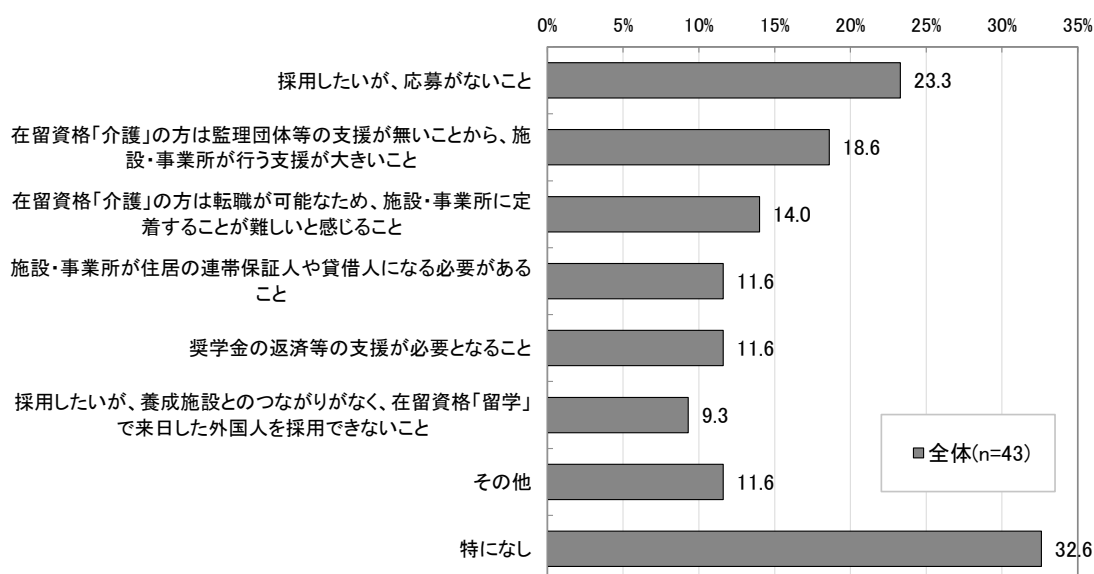
変化の内容（複数選択）（n=33）



問 19. 在留資格「介護」の方の雇用にあたっての課題（複数選択）

全体では、「採用したいが、応募がないこと」が 23.3%（10 件）と最も高く、「在留資格「介護」の方は監理団体等の支援が無いことから、施設・事業所が行う支援が大きいこと」が 18.6%（8 件）、「在留資格「介護」の方は転職が可能なため、施設・事業所に定着することが難しいと感じること」が 14.0%（6 件）、「施設・事業所が住居の連帯保証人や貸借人になる必要があること」が 11.6%（5 件）、「奨学金の返済等の支援が必要となること」が 11.6%（5 件）、「採用したいが、養成施設とのつながりがなく、在留資格「留学」で来日した外国人を採用できないこと」が 9.3%（4 件）となっている。また「特になし」が 32.6%（14 件）となっている。

在留資格「介護」の方の雇用にあたっての課題（複数選択）（n=43）



問 20. 在留資格「介護」の方が就労することについて、また一緒に働くことについて感じていること

（主なご意見） ※文意を損なわない範囲で修正を加えている場合があります。

【専門性について】

- ・ 外国籍職員にとっては、わからないことからのスタートであるが、入居者・利用者、日本人職員、仕事に慣れていくことで、「仕事」が「ケア」に変わっていると感じる。
- ・ まだ一人だけなので当人の印象でしかないが、在留資格「介護」をとるには介護福祉士に合格しないといけないわけで、日本人でも落ちることが多々あるなか外国人で合格するという事は相当頭がいいと感じる。そして、この資格があれば自分でどこへでも好条件のところへ行けるので、きちんと雇用しなければならないと思う。しかしながら、外国人に限らず転職するのは日本人も同じであるので、特別扱いする必要はないと考える。
- ・ 多様性の風土形成が促進します。障害、疾病があっても同じ人であるということを当たり前と思える環境作りに大きく貢献していると感じます。プロ意識が強く、責任感が強い。思いやる心も強いと感じます。
- ・ 国内の日本語学校及び養成施設を卒業しており、技能実習生や特定技能に比べて日本での生活及びコミュニケーションもほぼ問題無く即戦力になる。

【施設・事業所の雰囲気等の良さについて】

- ・ 在留資格「介護」の方は一生懸命に介護という仕事に対して向き合ってくれるため、

指導を行うスタッフのモチベーションも上がり、職場全体が活性化され良い影響をもたらしてくれていると感じている。

- ・ 日本人の介護者より言葉使いや介護も丁寧で非常に重宝しています。これからもどんどん採用していきたい。
- ・ 外国籍の職員は日本人よりも丁寧に一所懸命に仕事をしてくれます。イベントや普段からフレンドリーで職場が明るくなります。
- ・ 職員が報告・連絡・相談をする場合、より丁寧に言葉を選び、伝わりやすくすることを心がけるようになった。
- ・ 日本人職員が積極的に話しかけたり、みんなで育てようという共通目標ができることで職員間のコミュニケーションが活発になっている。

【日本人職員に対する影響について】

- ・ 言葉だけでなくコミュニケーションの効果を改めて知る機会になった。言葉が通じなくても認知症ケアはできると言っても過言で無い状況がたくさんあった。介護職員の職場雰囲気が大きく変わるきっかけになっている。「私も頑張らないと！」「純粹さに刺激を受ける」等々。
- ・ 外国人介護職員が入職することで、日本人職員の意識やモチベーションが上がった。お互いに切磋琢磨して成長していってほしい。
- ・ 利用者様への接し方に優しさを感じさせられる外国人介護職員の方が多く、日本人職員も初心にかえって、福祉の精神を踏まえた接し方をしなければならないと反省させられることが多い。

【日本語能力について】

- ・ 日本語読み書きの理解力はN2は必要である。
- ・ 日本語をいかに理解しているか、コミュニケーションがとれるかが、大事と考えます。
- ・ 日本語が十分理解できないため教えるにも時間がかかる。
- ・ 語学能力を上達できるか否かがとても重要だと感じています。

【その他】

- ・ 基本的には一定レベル以上の介護知識を持ち、福祉に対するかかわりをもって働きたいという方であれば受け入れ側としても積極的に支援していきたいと考える。また、介護人材不足の解消という観点からは日本人と能力格差は感じられないし、時として日本人以上の能力も持っておられると感じる。ただ、言葉の壁はやはり大きく、一定の業務までしか担当を任せられないということから、残りの業務は日本人スタッフがカバーしていかざるを得ない状況でもある。
- ・ サービス受給者にとって、提供側の国籍は関係ないことを学んだ。
- ・ 母国が同じ職員であっても、日本人同様に当然ながらそれぞれ性格も違い特徴があ

る。良いこと、悪いことも含め一括りに見られがちである。

- ・ 慣れてくると一緒に働くことが「普通」と感じられる。ただ、各事業所で取り組む際に苦労や工夫を共有出来たら、意見交換などあればと感じる。
- ・ 違和感なく、一緒に働いています。いつまで、日本に魅力を感じてもらえるのだろうと、不安もあります。外国人だけに頼らず、社会全体に介護の重要性と魅力が伝わる必要があると思います。「日本人がやりたがらない仕事を、外国人にしてもらおう」という仕事があってはいけないし、介護が、そのようなレッテルを貼られた職業になってはいけないと思います。
- ・ ほぼ日本人スタッフと変わらない存在です。今後ますます国籍は関係なくなっていくと考えています。
- ・ 在留資格を「介護」に変更することで、長期就労する希望があると感じる。
- ・ 記録を苦手とする方もみられ、多少の困難さを感じてはいるが、得手不得手で業務を分担するのは日本人職員も同じであり支障があるとまでは思わない。

令和4年度 厚生労働省 社会福祉推進事業
在留資格「介護」の実態把握及び活躍支援に向けた調査研究事業
報告書

令和5年（2023年）3月
公益社団法人 日本介護福祉士会